講談社シリーズMOOK

スーパー戦隊 SUPER SENTAI Official Mook

21ST CENTURY

創刊 vol.0

講談社

スーパー戦隊

40年以上にわたり、戦い続けるスーパー戦隊のヒーローたち。その姿は力強く、かつ美しい。複数の色とりどりのヒーローが力を合わせ、メカやロボに搭乗して繰り広げる戦いは、既にワールドワイドである。本シリーズの創刊記念として、「スーパー戦隊シリーズ」の長期シリーズ化に尽力された鈴木武幸さんに、想いをうかがった。

「スーパー戦隊」15年の記憶

鈴木武幸

東映株式会社 顧問兼テレビ事業部門 エグゼクティブプロデューサー

『がんばれ!! ロボコン』『アクマイザー3』『超神ビビューン』などを担当してからしばらく、日本サンライズ(当時)の長浜忠夫さんや高橋良輔さんらと、アニメーションをやっていたんです。『闘将ダイモス』や『サイボーグ009』などですね。そして『(太陽戦隊)サンバルカン』で、また実写作品にもどりました。『サンバルカン』は作品のテンポなどのために思い切ってチームを3人にしちゃって、ユニークな作品には仕上がったんですが、人気の点ではやや苦戦したんです。それで、続く『(大戦隊)ゴーグルV(ファイブ)』は、意図して徹底的にオーソドックスに展開させ、画面は徹底して派手にするようにしました。「これが基本だよ」っていうものを目指したんです。

『(科学戦隊)ダイナマン』のときに考えたことは、デザイン面での強化です。それで、サンライズとやっていた頃から実写をやってもらいたいと思っていた出渕(裕)君にデザイナーをお願いしたんです。当時の実写ものは、アニメに比べてデザイン面で遅れていると考えていたので、出渕君にやってもらえて、大変良かったですね。レインボー(造型企画)さんも「ついにこういうデザインがきたぞ」っていう感じで(笑)、すごく頑張ってくれました。そして全体的に思いっきり変えてみようとしたのが、『(超電子)バイオマン』です。女性も2人にしまして。さしみのツマみたいに扱われがちだった女性にも、ちゃんとドラマをまとわせたかったんです。ロボも非常に良かったですね。デザインがいいと、こちらもやる気になりますし、バイオロボはうまくドラマに組み込めましたね。あとは、敵にもきちんとした物語を与えたかった。ドクターマン役の幸田宗丸さんも一生懸命演じてくださって、「もう一年やりたい」とおっしゃるほどドクターマンを気に入られたようです。あの時期のメインライターの曽田博久さんとは年齢が近いこともあり、2人でノッてノッて物語を作っていたような気がします。

@用户2707638182

その歴史とは?

ん、『(電撃戦隊)チェンジマン』では大野克夫さんに主題歌の作曲をお願いしました。大野さんのときですか、上がってきた曲がお願いしたビートじゃなかったのでやり直してほしいと伝えると、マネージャーの方がやっている時間がないということでした。なので、「これは受け取れません」って言って帰っちゃったんです。主題歌がうるさくなりすぎていた時期でしたので、ビートにこだわったんですね。本当はもう時間がなくて代わりも立てられず、困っちゃっていたんです。すると、先方から「もう一回やります」と連絡をいただきました。あのときは、綱渡りでしたね(笑)。でも、ネバッた甲斐は、充分ありました。

『(超新星)フラッシュマン』はシリーズの頭で宇宙をしっかりと描き、『宇宙戦隊キュウレンジャー』の元祖かもしれません(笑)。ちょっと悲しいラストでしたけど、チャレンジだと思ってやってみました。

『(鳥人戦隊)ジェットマン』では雨宮(慶太)さんら、東映育ちではない人材にお願いして、撮影現場にも変化をもたらそうとしました。それで現場を説得する材料として、雨宮さんには第1~2話の絵コンテをお願いしたんです。力作が上がりまして、それを見たいのくま(まさお)さんが、「いいじゃない」って。長老のいのくまさんが納得すれば、もう大丈夫でした(笑)。『(地球戦隊)ファイブマン』のときに特撮監督が佛田(洋)君になって新しい特撮が生まれ、本編も長石(多可男)さんがメイン監督になって凝った演出をしてくれるようになっていたので、1990年頃は変革期だったのかもしれません。

『(恐竜戦隊)ジュウレンジャー』は『ジェットマン』とは方向性を変えたんですが、アメリカで展開する『(マイティ・モーフィン・)パワーレンジャー』には、これしかないと思って作った面も多分にありました、恐竜はいけると。あの頃は毎回毎回、全然違うことをやろうと思って、シリーズのカラーをガラッと変え続けたんですが、正直、しんどかったですね。当時は人員に余裕がなく、15年間も連続してやっていましたからね。まともに休みをとれたのは、お正月の三が日くらいでしたよ。いま思うと、よくやれました。若かったのですね。

@用户2707638182

9人で最強！

宇宙戦隊キュウレンジャー

いよいよ佳境を迎えている『動物戦隊ジュウオウジャー』の後を受ける「スーパー戦隊シリーズ」第41作は、『宇宙戦隊キュウレンジャー』だ。キュウレンジャーのキュウは球であり究であり、9であり救である！球を使う究極の9人のヒーローが、宇宙を救うため大宇宙を舞台に2月12日のテレビ朝日、朝7時30分より大活躍を開始する。スタイルを含め個性的な9大ヒーローは、はたして何者なのか？

ビーストスター
オオカミブルー

ゴーグルが狼の横顔になっているのが面白いが、なによりも目を引くのは、全身が毛皮のようになっていること。首にもタテガミ状のものがあるので、防御力も高いだろう。

リングスター
オウシブラック

写真ではややわかりにくいが、オウシ座の黒いヒーローはおそらくスーパー戦隊史上最も大きなボディである。マスクの形状も、これまでにない個性的なものだ。

シノビスター
カメレオングリーン

グリーンの女性ヒーローは、テレビシリーズでは初。シノビとカメレオンという馴染みのいい組み合わせが、その活躍への期待をいやが上にも盛り上げてくれる。

フードマイスター
カジキイエロー

カジキ座のヒーローだ。そのゴーグルの中央部はいまだかつてないほど尖っており、まさにカジキ。フードマイスターとは、はたしてどういうこと？

@用户2707638182

2017年 今度のスーパー戦隊は

スピードスター

ワシピンク

鷲が羽ばたいている、動的なゴーグルが映えるのは女性戦士。ワシ座の戦士なので、翼が付いていて目を引く。飛行攻撃などが得意であろうことは、容易に想像がつく。

サイレントスター

ヘビツカイシルバー

ゴーグルはコブラだが、ヘビツカイ座である。その色調からゴールドとコンビかと予想されるが、能力的にはオレンジに近いようにも思われる。サイレントなので、物静かなのか。

トリックスター

テンビンゴールド

メタルカラー系のヒーローが最初から登場することも、これまた初のケース。テンビン座ということは、バランス感覚に優れているのか？トリックを謳っているが、はたして……。

ポイズンスター

サソリオレンジ

サソリがヒーローというのも、初めてだ。毒を武器としているのだろうか？ 確かに、先端に鋭い針のついた尻尾が見える。この尻尾も、強力な武器として機能するのだろう。

スーパースター

シシレッド

主人公のレッドヒーローは、シシ座。ゴーグルが、ライオンの顔になっている。その色も従来の黒ではなく、濃紺に星がちりばめられているのもGOOD。

@用户2707638182

謎を秘めたキュータマとは？

オオカミキュータマ

サソリキュータマ

シシキュータマ

キュウレンジャーが使用するアイテムは、キュータマ。名前の響きは可愛らしいが、たくさんのパワーを秘めているもののようだ。戦士と同じ属性の９つが明らかになっているが、おそらく星座のパワーと密接に関わるものであろう。

セイザブラスター

９人が左腕に着けているメカは、セイザブラスターという名称が判明している。ブラスターというように、たしかにグリップと引き金と思われるパーツがある。キュータマもセットできるようなので、相当な威力を秘めているアイテムなのであろう。

@用户2707638182

究極の救世主が今——

劇場で初の決戦!

1月14日から全国の劇場で公開されている『ジュウオウジャーVSニンニンジャー』では、テレビシリーズに先駆けてキュウレンジャーが登場している。大スクリーンで、その勇姿が確認できるチャンスなので、ぜひご覧ください。

そのシチュエーションは、9人が劇場版の敵、ギルマーダに加勢しようとするデスガリアンのアザルドとクバル、ナリアの企てを阻むというものである。アザルドに迫るシシレッドのキューソードを使った猛烈なアクションや、セイザブラスターによる超絶攻撃が堪能できるぞ。また、9人がどんな戦いざまを見せるのかというアクション部分も、見逃せないポイントになっている。

キュウレンジャー、スタート!

望月 卓
東映株式会社 テレビ企画制作部 プロデューサー

入社8年目になりますが『(侍戦隊)シンケンジャー』の現場研修から特撮に携わり、『仮面ライダーW(ダブル)』の途中からサブプロデューサーとして参加、以降、『(海賊戦隊)ゴーカイジャー』『(特命戦隊)ゴーバスターズ』『仮面ライダードライブ』『仮面ライダー鎧武/ガイム』『(動物戦隊)ジュウオウジャー』と続いています。『(非公認戦隊)アキバレンジャー 痛』というのもありましたけど(笑)。

今回、『(宇宙戦隊)キュウレンジャー』の企画をやらせていただいていますが、僕がSFや宇宙モノ好きであるところからすべてが始まっています。とはいえ宇宙といっても漠然としてるので、「じゃあどういうモチーフにしようか」という打ち合わせのなかで、星座が選ばれていきました。『ゴーバスターズ』の時は35作記念の『ゴーカイジャー』という反則的なスーパー戦隊の後ということもあり、改革を目指してスタートしたんですが、あらゆる部分を変えすぎてしまったのかなと感じています。ですから40作記念の『ジュウオウジャー』の後となるこの企画については「スーパー戦隊」の良さを残しつつ、変えるべき部分には思い切ってメスを、というバランスを意識しています。例えば、スーパー戦隊の最大の特徴はチームヒーローであるということですから、〝伝統の〟チーム感をより強く押し出すために9人戦隊という〝変化〟を加えました。

僕はどちらかというと新しいことをどんどんやっていきたいと思っていますが、40年以上もシリーズが継続してきたという事実、そこには必ず理由があります。そうさせてきた伝統的な〝良さ〟は消してはならない。従来の強みを踏襲しつつも新風を吹かせる、いいトコどりのハイブリッドな戦隊を目指します。とはいえ、ヒーローのデザインについては、アクションのしやすさに配慮しすぎて大人しくなっていたところをいったん取っ払ってみました。結果、攻めの姿勢が色濃く出てしまったかなと思います(笑)。アクターさんには苦労をかけますが、逆に超一流は道具を選ばない。ウチの番組が誇る日本一のアクターさんたちを信頼しているからこその挑戦でもあります。役者のキャスティングも、とても満足できるものになりました。ただのイケメン・美女というよりは、そこに加えて、背丈の凸凹も含めたタイプの異なる人材が揃い、かなりの個性派集団となっています。脚本の毛利(亘宏)さんは舞台畑の出身、あてがきのプロですし、彼らの個性を活かしたキャラクターの描き分けがいまから非常に楽しみです。

子供たちに向けた作品だということはじつはとても意識していまして(笑)、見え方は「大人にも楽しめる作品」かもしれませんが、ほとんど子供たちのことだけを考えて作っていたらこうなりました。周りからはよく「ガキだね」と言われるので、僕が楽しめれば子供たちも楽しいはずだと言い聞かせ(笑)、なるべく子供の目線でものを見るようにしています。特撮の佛田(洋)監督とは「『スーパー戦隊』の大きな特徴はロボ戦ですよね」というコンセンサスがあり、ロボ戦はアクションとして映えるものを目指しています。柴﨑(貴行)監督には、メインをはられた2作品—革新の『ゴーバスターズ』と王道の『ジュウオウジャー』を経て、柴﨑三部作の最終章としてのハイブリッド戦隊をお撮りいただきたいとお願いしております。監督陣とは常々、『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』のような陽気な作品にしたいね、と話しています。黒バックになりがちな宇宙が舞台ですので、画的なものも含め作品全体の印象として暗くならないように子供たちに楽しんでもらえるような明るく楽しい作品づくりを心がけて頑張りますのでぜひ見てください!! よろしくお願いいたします。

@用户2707638182

スターマシーン

ゴレンジャーマシーンに替わる新型オートバイ。走行時における攻撃用兵器を装備。

ゴレンジャーマシーン

ゴレンジャー専用の陸上戦闘用車両。リチウムエンジンを搭載し、自動操縦も可能。

ゴレンジャーハリケーン

新型ボール爆弾をモモ、キ、ミド、アオの順でパス。最後にアカが敵めがけてキックする合体必殺技。

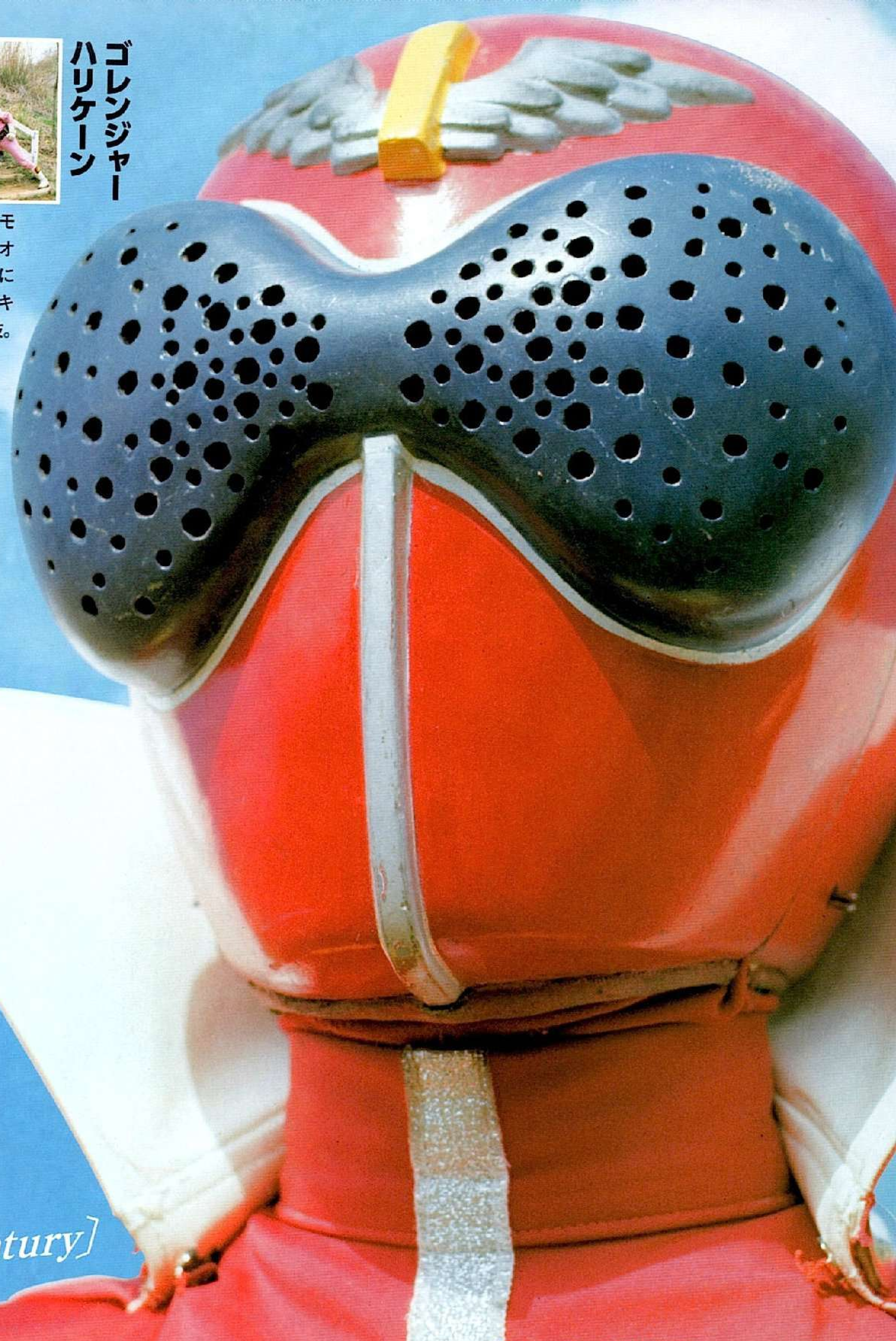
バリドリーン

新たに開発された〝空の要塞〟。万能戦車バリタンクやスカイロック、スカイミサイルなどの兵器を搭載。

バリブルーン

飛行速度1200km/hを誇る大型戦闘機で、内部にゴレンジャーマシーンをはじめ、救助メカや攻撃兵器を有す。

レンジャーに転換する5人の青年。右から大岩 太(初代キ)、新命 明(アオ)、海城 剛(アカ)、ギー松山(モモ)、明日香健二(ミド)。



の系譜 ACT.1 〔20th century〕

秘密戦隊ゴレンジャー

HIMITSU SENTAI GORENGER

全人類の破滅をもくろむ謎の仮面集団「黒十字軍」から世界の平和を守るため、国際防衛機構「イーグル」日本ブロックから選抜された5人の戦士で結成された。集団戦闘を得意とし、黒十字軍から送り込まれる改造人間〝仮面怪人〟を5人の合体必殺技で次々と倒す。

秘密戦隊ゴレンジャー

1975年4月5日〜1977年3月26日

大人気作品となった「仮面ライダーシリーズ」と双璧をなすべき〝新たなキャラクターの創造〟に意欲を燃やした東映は、1975年（昭和50年）、石森章太郎（現・石ノ森章太郎）原作による集団ヒーロー作品『秘密戦隊ゴレンジャー』の放送を開始。中心視聴者である児童から絶大なる支持を受け、2017年（平成29年）の現在まで続く「スーパー戦隊シリーズ」の基礎を作り上げた。

@用户2707638182

ジャッカー電撃隊 JAKQ

1977年4月9日〜12月24日

行動隊長ビッグワンには、4大エネルギーを併せもつ番場壮吉がチェンジする。

サイボーグ戦士に改造された青年たち。右から大地文太(キング)、桜井五郎(スペード)、カレン水木(ハート)、東 竜(ジャック)。

ジャッカー電撃隊の陸上戦闘用車両は、2台のスーパーカー、バギー、オートバイで構成され、チェンジ前の戦士たちも使用していた。

ジャッカーコバック

クライムの機械怪物の体内に4大エネルギー(原子、電気、重力、磁力)を注入し、爆破する合体必殺技。

ジャックタンク

ジャッカーが誇る地上用攻撃メカで、後部には強化カプセルを積むスペースもある。上部には2門の大砲を装備。

スカイエース

胴体中央に、4人の青年をジャッカーにチェンジさせるための強化カプセルを装備したスカイコンテナを積んでいる。

40大スーパー戦隊

ジャッカー電撃隊 JAKQ DENGEKITAI

世界中で猛威を振るう犯罪シンジケート「クライム」に対抗する目的の下、「国際科学特捜隊」が結成したサイボーグ部隊。原子(スペード)、電気(ジャック)、重力(キング)、磁力(ハート)のエネルギーを身につけた戦士と行動隊長ビッグワンで構成されている。

ビッグボンバー

スペードたち4大戦士が砲身、左右の車輪、台座を取り出して合体させ、最後にビッグワンが弾丸を込めて発射する後期の合体必殺技。

『秘密戦隊ゴレンジャー』に続く新番組として制作された『ジャッカー電撃隊』は、前作とは異なった〝リアル路線〟を目指して企画され、犯罪シンジケートと捜査組織の戦いを中心に描かれたが、「スーパー戦隊シリーズ」の中心視聴者である児童たちの嗜好も考慮し、中盤から路線を変更。〝ヒーローらしいヒーロー〟であるビッグワンを新メンバーに加え、娯楽性の高い作品として放送が続けられた。

@用户2707638182

バトルフィーバーJ

1979年2月3日〜1980年1月26日

『ジャッカー電撃隊』放送終了から約1年2ヵ月を経て、東映は新たなヒーローを創造。5人の超人が万能戦艦や巨大ロボットを操縦し、悪の組織に対抗するという新番組を制作した。それが『バトルフィーバーJ』である。世界5大陸のダンスを戦闘アクションに取り入れるなど、時代の流行を巧みに取り入れたことでも人気を博した。

バトルフィーバー隊

TEAM BATTLE FEVER

国防軍の精鋭とFBIの捜査官で構成された戦闘部隊。「フィーバー!」の掛け声とともに戦闘強化服・バトルスーツを装着。ダンスのリズムを活かしたアクションで、秘密結社エゴスの野望に立ち向かっていく。

バトルフィーバー隊のメンバー。右から志田京介(フランス)、白石謙作(初代コサック)、ダイアン・マーチン(初代アメリカ)、伝正夫(ジャパン)、曙四郎(ケニア)。

スリーマシーン

ケニア、フランス、コサックが乗用するオートバイ。緊急移動やパトロール、敵の追跡など、その用途は広い。

バトルフィーバーカー

主にジャパンとアメリカが乗用する、バトルフィーバー隊専用車両。攻撃用兵器などの装備はないが、探査機能に優れている。

バトルフィーバーロボ

バトルシャークの船体から出動する巨大ロボット。必殺の電光剣でエゴスの悪魔ロボットを攻撃する。

バトルシャーク

バトルフィーバー隊が誇る万能戦艦。船尾ミサイルやウィングミサイル、爆雷などの重火器を装備。

ペンタフォース

5人が所有しているコマンドバットを合体させて使用。バズーカ砲とブーメラン武器に変形する。

@用户2707638182

電子戦隊

デンジマン

1980年2月2日〜1981年1月31日

ＳＦ性と神秘性を意識して制作された『電子戦隊デンジマン』は、宇宙から飛来した巨大宇宙船「デンジランド」のコンピューターによって選ばれた５人の若者が、デンジ星の超科学装備を駆使して、地球を死の世界にしようと企てるベーダー一族と対決するという、スペクタクル作品である。敵方を重視したその作品作りは、後の「スーパー戦隊シリーズ」のファン層を広げるための大きな足掛かりになったといえる。

デンジマンにチェンジする5人。右から緑川達也(グリーン)、黄山 純(イエロー)、赤城一平(レッド)、青梅大五郎(ブルー)、桃井あきら(ピンク)。

電子戦隊デンジマン

DENSHI SENTAI DENZIMAN

3000年前に滅びたデンジ星の超科学力で開発された強化服・デンジスーツを装着し、超人となった5人の若者が結成した戦隊。額のデンジメカ内部にあるデンジストーンの力で、ベーダー一族の怪物に対抗する。

デンジバギー

レッド以外のメンバーが乗用するバギーカー。パトロール用の車両だが、後部に対ベーダー無反動砲やマシンガンを装備することもあった。

デンジマシーン

デンジレッドが乗用する万能サイドカーで、横にはピンクが乗ることもある。マシンガンやミサイルを装備し、水中での活動も可能である。

デンジタイガー

電子戦隊の万能戦闘母艦で、その内部にはデンジファイターを搭載している。宇宙空間を光の速度で航行し、地上ではキャタピラで走行する。

デンジブーメラン

5人が持つデンジスティックを合体させると、火花を散らしながら回転し、逃げるベーダー怪物を追尾して命中。体を爆破する必殺技。

デンジファイター

巨大ロボット、ダイデンジンに変形する巨大戦闘機だが、この形状でベーダー怪物を攻撃することはなかった。

ダイデンジン

デンジマンが搭乗し、操縦する巨大ロボット。必殺技、デンジ剣・電子満月斬りのほか、デンジボール、ダイデンジンブーメランなどの武器を使用。

@用户2707638182

太陽戦隊 サンバルカン

1981年2月7日〜1982年1月30日

『太陽戦隊サンバルカン』は、シリーズのマンネリ化を防ぐため、正義側の戦士をあえて3人にし、地球平和守備隊に所属する空・海・陸のエキスパートとして設定。ミリタリー色の強い作品を目指した。また、視聴者に対してイメージを強く印象づけたいという考えで、キャラクターデザインに初めて動物モチーフが使用されたことも本作の特徴であり、そのアクションも野生を意識したダイナミックなものとなっている。

サンバルカンにチェンジする3隊員。右から元レンジャー部隊員の豹 朝夫（パンサー）、元空軍将校の大鷲龍介（初代イーグル）、元海軍将校の鮫島欣也（シャーク）。

ジャガーバルカン

サンバルカンが搭乗する、全長150mの巨大母艦。ミサイルやバリヤー破壊ビームを搭載。また、パクリ戦法という技をもつ。

イーグルは、北極も走行可能な四輪車両、シャークは水上走行、パンサーはいかなる荒れ地をも走破できる専用オートバイに乗る。

バルカンボール

3色のボール型爆弾。3人でこれをパスし、最終的にイーグルがキックで打ち込み、敵を爆破する。後に変形機能が加わった。

サンバルカンロボ

コズモバルカンとブルバルカンが合体して完成する、出力500万馬力の戦闘ロボ。太陽剣やバルシールドなどが武器。

コズモバルカン ブルバルカン

大型戦闘機コズモバルカンはイーグル、重戦車ブルバルカンはシャークとパンサーが操縦する。

太陽戦隊 サンバルカン

TAIYO SENTAI SUNVULCAN

世界最高水準の軍事力を有する、国連サミット直轄の特殊組織〝地球平和守備隊〟から選抜された3人のメンバーによって結成したスーパー戦隊。北極より進撃してきた機械帝国ブラックマグマから世界の平和を守り抜く。

@用户2707638182

大戦隊ゴーグルファイブ

1982年2月6日～1983年1月29日

大戦隊ゴーグルV(ファイブ)

DAI SENTAI GOGGLE-V

未来科学研究所の本郷秀樹博士がコンピューター解析によって選び出した5人の若者が、ゴーグルブレスの力でチェンジした姿。それぞれのマスクに装備された宝石とレリーフは、5つの古代文明を象徴している。

敵側を"人類に災いをもたらす暗黒科学の集団"と設定し、それに"未来科学の力で対抗する正義の集団"として制作された『大戦隊ゴーグルV(ファイブ)』は、ヒーロー側を徹底的に明るくさわやかなキャラクターとして描いたことで、それまでにないカラーをもった作品となった。5人の登場時の長い名乗りや派手な飛び降りで始まる格闘シーンは、シリーズ屈指の見せ場を数多く生み出したといえよう。

ゴーグルVとなる青年たち。右から桃園ミキ(ピンク)、青山三郎(ブルー)、赤間健一(レッド)、黒田官平(ブラック)、黄島 太(イエロー)。

ゴーグルマシーン

ゴーグルレッドの専用オートバイで、優れたジャンプ性能を有している。また、車体前部にはマシンガンを装備。

ゴーグルクーガー

頑丈な装甲を誇る4WD車両で、レッド以外の4人が乗用。突撃戦法を行って敵集団を蹴散らしていく。

ゴーグルシーザー

ゴーグルVの巨大移動要塞で、後楽園球場の地下から発進。大型ミサイルや熱線、冷凍光線を装備している。

ゴーグルロボ

ＦＳＩ合金製の戦闘ロボで300万馬力のパワーを誇る。専用武器の地球剣で、敵に電子銀河斬りを炸裂させる。

ジェットにレッド、タンクにブルー、ダンプにイエローが搭乗し、暗黒科学帝国デスダークの巨大ロボと戦う。また、この3台が合体してゴーグルロボが完成。

ゴーグルジェット

ゴーグルタンク

ゴーグルダンプ

@用户2707638182

科学戦隊ダイナマン

1983年2月5日〜1984年1月28日

"子供たちに夢を"のコンセプトで制作を開始した『科学戦隊ダイナマン』は、若き5人の科学者が強化スーツを装着して超人となり、世界を蹂躙しようと企てる悪の組織と対決するという、極めてストレートな内容となった。また、"ダイナミック・ダイナマイト"のイメージで考案されたアクションは、これまでの作品以上に派手に演出され、当時の児童ファンを大いに興奮させたといえる。

ダイナマンの力を駆使する5人の科学者。右から南郷耕作(イエロー)、星川 竜(ブラック)、弾 北斗(レッド)、島 洋介(ブルー)、立花レイ(ピンク)。

ダイナマンの戦闘空母であり、ダイナマッハ、ダイナモビル、ダイナギャリーを搭載。ダムに擬装した秘密基地から出動する。

レッドは専用オートバイのダイナファルコン、それ以外のメンバーは4WDのダイナマシーンに乗り、敵と戦闘を繰り広げる。

巨大な敵と対決する際に登場する、ダイナマンの巨大ロボ。科学剣やダイナシールド、ダイナブーメランなどの武器を使用。

戦闘機のダイナマッハ、巨大四輪戦車のダイナモビル、大型トレーラーのダイナギャリーが合体することで、ダイナロボが完成。

科学戦隊ダイナマン

KAGAKU SENTAI DYNAMAN

地底から出現した侵略者、有尾人一族 ジャシンカ帝国に対抗するため、5人の科学者が結成したスーパー戦隊。世界最新科学で製作された装備を使い、体内のエネルギーを爆発させ、敵の進化獣やメカシンカに挑む。

@用户2707638182

バイオドラゴン

バイオマンたちの巨大戦闘母艦で、500年前にピーボがバイオ星から運んできた。機体側面に2門のレーザー砲を搭載している。

レッドとイエローは専用のスーパーオートバイ、グリーンとブルー、ピンクがスーパーカーに乗る。スーパースピード機能を発揮し、敵を追跡。

バイオロボ

バイオ星平和連合が平和利用のために製作し、地球に送った巨大ロボ。専用剣のスーパーメーザーから繰り出される多数の必殺技で、新帝国ギアが出撃させた大型ロボを倒す。

バイオジェット1号

バイオジェット2号

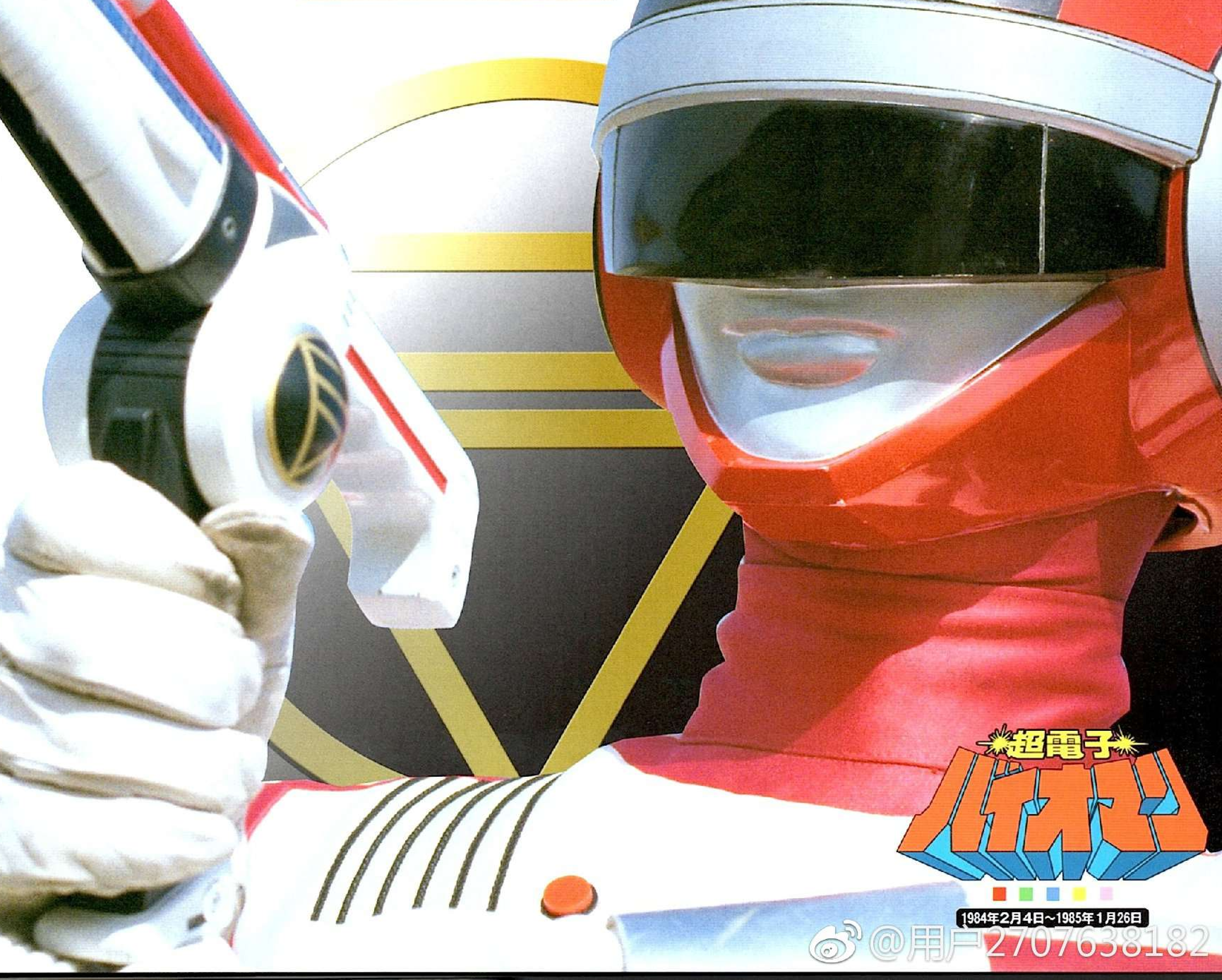
変形合体してバイオロボとなる大型戦闘機。１号をレッドとピンク、２号をグリーンとブルー、イエローが操縦する。

超電子バイオマン

CHODENSHI BIOMAN

５００年前、バイオロボからバイオ粒子を浴びせられた人間たちの子孫が召集されて誕生したスーパー戦隊。バイオ星の科学力で生み出された超装備を身に纏い、狂気の天才科学者が結成した新帝国ギアと対決する。

バイオマンとなった5人。右から桂木ひかる(ピンク)、小泉ミカ(初代イエロー)、南原竜太(ブルー)、高杉慎吾(グリーン)、郷 史朗(レッド)、サポートロボのピーボ。



シリーズのマンネリ化を防ぐため〝5人のヒーローと巨大ロボ〟というコンセプトは崩さず、新たな方向性が模索された作品が『超電子バイオマン』である。〝ヒーローが対決する等身大の怪人は巨大化せず、それとは形状が異なる大型ロボが出現して正義側の巨大ロボと戦う〟という流れを考案し、過去の作品と大きな差別化が図られた。また、本作では初めて女性戦士を2人にしている。

超電子バイオマン

1984年2月4日～1985年1月26日

@用户2707638182

電撃戦隊チェンジマン

DENGEKI SENTAI CHANGEMAN

地球がもつ謎の力"アースフォース"を浴びた5人の地球守備隊員が、スーパーヒーローへとチェンジした姿。宇宙を悪で包み込もうとする異星人混成組織、大星団ゴズマの野望に敢然と立ち向かう。

電撃戦隊 チェンジマン

1985年2月2日～1986年2月22日

チェンジマンとなった電撃戦隊メンバー。右から渚さやか(マーメイド)、疾風 翔(グリフォン)、伊吹長官、剣 飛竜(ドラゴン)、大空勇馬(ペガサス)、翼 麻衣(フェニックス)。

『電撃戦隊チェンジマン』は"宇宙ＳＦ+若き主人公たちの青春群像"というテーマで、それまでになかった一大ドラマを作り上げようという狙いで企画された作品である。地球守備隊に所属する５人の若きエリートが、偶然に浴びたアースフォースによって伝説獣の力を駆使できるようになり、チェンジマンとして宇宙から飛来する侵略者と対決するという硬質なドラマ内容は、高い年齢層のファンにも受け入れられた。

チェンジクルーザー

主にドラゴンが運転する４WD車両で最高速度520km/h。探査ビーム砲とミサイル装備。

オートチェンジャー

５人が戦闘に使用する専用オートバイ。最高速度340km/hで走行し、50mのジャンプ力を発揮する。

ランドチェンジャー3

ヘリチェンジャー2

ジェットチェンジャー1

ジェットにドラゴン、ヘリにグリフォンとマーメイド、ランドにペガサスとフェニックスが搭乗し、攻撃を開始する。

シャトルベース

地球守備隊所属の宇宙船であり、３台の合体メカを搭載する大型母艦。シャトルミサイルとシャトルビッグレーザーで、敵の船団や巨大化した宇宙獣士と対決。

チェンジロボ

ジェット、ヘリ、ランドが合体して完成する巨大ロボで全高54.2m。電撃剣で必殺、スーパーサンダーボルトを繰り出す。

@用户2707638182

超新星フラッシュマン CHOSHINSEI FLASHMAN

20年前、エイリアン・ハンターにさらわれた地球人の少年少女が、宇宙の過酷な環境の中で成長。フラッシュ星の科学力で超人にチェンジした姿。改造実験帝国メスの魔手から地球を防衛。

超新星フラッシュマン

1986年3月1日〜1987年2月21日

前作の〝宇宙SF〟のコンセプトをさらに進めて、主人公5人が宇宙で育った人間だと設定し、より地球と宇宙のコミットメントを強化した作品が『超新星フラッシュマン』である。全宇宙を荒廃に導こうとする侵略者から〝母なる星・地球〟を守ろうとする戦士たちの行動は、視聴者に強い感動を与えたと思われる。

フラッシュマンにチェンジするフラッシュ星で育った5人の地球人。右からダイ(グリーン)、サラ(イエロー)、ジン(レッド)、ルー(ピンク)、ブン(ブルー)。

5人が乗る専用オートバイ。各車両はバルカン砲、ミサイルランチャー、ロケット砲、マシンガン、レーザー砲などを装備。

レッドがコマンド、グリーンとイエローがデルタ、ブルーとピンクがシーカーを操縦。

フラッシュマンの基地で全高145・3m。ブースターを装着すれば、宇宙航行も可能。

フラッシュマンが搭乗する空母で3台の合体メカを搭載。ミサイルとスターコンドルビームを撃つ。

コマンド、デルタ、シーカーの3台が合体し、完成する万能巨大ロボ。専用剣コズモソードを使って強力な必殺技を繰り出す。

@用户2707638182

ターボランジャー

マスクマンや合体メカを戦場へと運搬するための大型母艦で、自動操縦も可能。機体左右にターボランジャーミサイルを装備している。

レッドは専用バギーカーのスピンクルーザー、他の４人はスーパーバイクのマスクローダーを操り、敵に突撃。

グレートファイブ

マスクマンたち５人のオーラパワーで起動する巨大ロボ。光電子ライザーを使い、ファイナルオーラバーストを繰り出す。

マスキーファイター

マスキードリル

マスキータンク

マスキージェット

マスキージャイロ

ファイターにレッド、ドリルにブラック、タンクにブルー、ジェットにイエロー、ジャイロにピンクが乗る。５台が合体し、グレートファイブが完成。

オーラパワーを会得し、マスクマンへとチェンジする５人の戦士。右からケンタ(ブラック)、ハルカ(イエロー)、タケル(レッド)、モモコ(ピンク)、アキラ(ブルー)。

ショットボンバー

マスクマン専用の大型エネルギー砲バズーカ。レッドが背負ったタンクのエネルギーと５人のオーラパワーを合成し、敵めがけて発射する。

光戦隊マスクマン HIKARI SENTAI MASKMAN

人間がもつ神秘の力〝オーラパワー〟を使って超人にチェンジし、無限の戦力・能力を発揮するスーパー戦隊で、その力は鍛えれば鍛えるほどさらに強くなっていく。地上侵略を企てる地底帝国チューブと戦闘を繰り広げた。

『光戦隊マスクマン』は、前２作の対極に立つ〝人間の内面〟に着目した作品となった。武術の達人である５人の主人公がトレーニングによって〝オーラパワー〟を身につけることで、超人へとチェンジするという設定が与えられ、人間がもつ可能性を力強く歌い上げる物語が誕生する。また、正義と悪に分かれた男女が〝愛憎〟を含んだ戦いを繰り広げるという内容も作品の重要な鍵となっていた。

@用户2707638182

『超獣戦隊ライブマン』は、巨大ロボが登場するようになった『バトルフィーバーJ』から数えて10作目記念として、特撮シーンやアクションなどに力が注がれた作品であった。また、主人公を3人に設定し、対立する敵側にも陰の主人公を同じく3人置くことで"青春群像"を明確に描こうとする試みが行われたが、番組途中で2人の新戦士が登場し、最終的には5人のスーパー戦隊となる。

マシンバッファロー

3台の合体メカを搭載する巨大母艦で、基本的にはサポートロボのコロンが遠隔操縦。M3で飛行し、専用武器はバッファローミサイル。

アクアドルフィン　ランドライオン　ジェットファルコン

ジェットファルコンにレッド、ランドライオンにイエロー、アクアドルフィンにブルーが乗る。この3台が合体し、ライブロボが完成。

ライブロボ

ライブマン専用の巨大ロボで、製作者の星博士が秘かに3台のメカに合体機能を取り付けていた。専用武器は超獣剣。

ライブマンとなる5人。右から岬めぐみ（ブルー）、矢野鉄也（ブラック）、天宮勇介（レッド）、相川純一（グリーン）、大原 丈（イエロー）。

モトマシーン

レッド、イエロー、ブルーが乗る専用オートバイ。ミサイル、バルカン砲、レーザー砲を装備。

ライブクーガー

イエローが運転し、レッドはクーガーバルカンを操作。後にブラックとグリーンの専用車両となった。

超獣戦隊ライブマン

CHOJU SENTAI LIVEMAN

科学アカデミアに所属する3人の学生が、天才による人類支配を企む武装頭脳軍ボルトに対抗するために結成した戦隊。後に2人の仲間を得て、遂には悪の野望を砕く。

超獣戦隊
ライブマン

1988年2月27日〜1989年2月18日

@用户2707638182

高速戦隊ターボレンジャー

1989年2月25日～1990年2月23日

5人の主人公を高校生に設定した『高速戦隊ターボレンジャー』では〝一度きりの18歳の青春を賭けて、戦いの渦の中に我が身をダッシュさせる〟というコンセプトのもとで制作が進められた。また、キャラクターモチーフとして自動車が採用され、スピーディーなアクションにも力が注がれている。さらに〝妖精、自然回帰〟というファンタジー要素も組み込まれた意欲作でもあった。

ターボアタッカー

レッド専用のバギーで最高速度400km／h。アタッカーバルカンとアタッカーマグナムを装備している。

マッハターボ

ターボレンジャーの専用オートバイで、最高速度360km/h。武器などは装備されていないが、強い突進能力で敵を蹴散らしていく。

ターボロボ

無公害エンジンを搭載したターボレンジャーの地上用巨大ロボで、精霊が宿っているために意思をもっているらしい。高速剣と2丁のターボカノンを駆使して巨大化した暴魔獣を粉砕する。

GTにレッド、トラックにブラック、ジープにブルー、バギーにイエロー、ワゴンにピンクが乗る。5台が合体し、ターボロボが完成。

ターボジープ

ターボトラック

ターボGT

ターボバギー

ターボワゴン

ターボレンジャーになる5人の高校生。右から日野俊介(イエロー)、浜 洋平(ブルー)、炎 力(レッド)、森川はるな(ピンク)、山形大地(ブラック)。

ブラックターボ

イエローターボ

レッドターボ

ピンクターボ

ブルーターボ

高速戦隊ターボレンジャー

KOUSOKU SENTAI TURBORANGER

幼いころに妖精の光を浴びた5人の高校生が、妖精族最後の生き残りであるシーロンと科学者の太宰博士によって選ばれ、ターボスーツを装着した姿。人類壊滅を狙う悪の集団、暴魔百族と対決する。

@用户2707638182

地球戦隊ファイブマン

CHIKYU SENTAI FIVEMAN

20年前に宇宙で銀帝軍ゾーンの襲撃を受け、両親とはぐれた５人の兄弟が地球で成長。自身らで開発したファイブスーツを装着した姿。父が残した超装備を駆使し、ゾーンの地球進撃に立ちはだかった。

地球戦隊 ファイブマン

1990年3月2日〜1991年2月8日

ホークアロー

ファイブマンが使用するオフロードタイプのスーパーオートバイで、最高速度330km/h。カウリングに装備されたホークカノンが武器。

キャリアベータ

スカイアルファー

ランドガンマ

スカイアルファーにレッド、キャリアベータにブラックとイエロー、ランドガンマにブルーとピンクが搭乗する。

マグマベース

ファイブマンの基地兼自宅であり、最高速度800km/hで飛行する巨大宇宙船。三連装の巨大砲が２基設置されている。

ファイブロボ

アルファー、ベータ、ガンマの３台が合体して完成する巨大ロボ。元は宇宙開拓用の作業ロボだったが、ファイブマンによって戦闘用に改造された。武器は超次元ソード。

ファイブマンにチェンジする星川兄弟。右から三男の文矢（ブラック）、次女のレミ（イエロー）、長男の学（レッド）、長女の数美（ピンク）、二男の健（ブルー）。

『地球戦隊ファイブマン』では〝自然〟テーマの強調と、同級生以上に強い結びつきである〝兄弟〟という設定が与えられた。それは、理想的な知力と体力を身につけた兄や姉がスーパーヒーローだったのならどんなに頼もしいことだろうという、ある種の〝憧れ〟を視聴者の児童に抱かせたいという〝制作側の想い〟によって生まれたものだといえよう。

@用户2707638182

鳥人戦隊ジェットマン

1991年2月15日〜1992年2月14日

長期となった「スーパー戦隊シリーズ」に新たな潮流を起こすべく企画されたのが、この『鳥人戦隊ジェットマン』である。若い正義心のさわやかな爆発という一線を守りながらも、物語をよりドラマチックに、より濃密に描いていくことで"中心視聴者の児童からマニアックな目線の大人までが楽しめる作品を目指す"という理念のもと、主人公同士の対立や恋愛などを描いたことで、多くのファンを獲得する結果を残した。

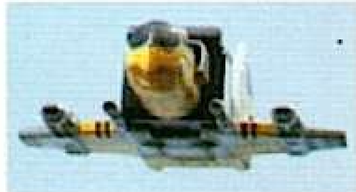
ジェットイカロス

短剣・ジェットダガーや薙刀・ジェットランサーなど、多くの武器を駆使する万能戦闘ロボ。最強武装は一撃で敵を粉砕する必殺剣、バードニックセイバー。

ジェットホーク

ジェットコンドル

ジェットオウル



ジェットスワン

ジェットスワロー

5機のジェットマシンが合体することで、巨大ロボのジェットイカロスや、火の鳥となって敵を倒す重爆撃機形態のイカロスハーケンが完成。

鳥人戦隊ジェットマン
CHOJIN SENTAI JETMAN

次世代防衛組織スカイフォースの隊員1人と、次元戦団バイラムの攻撃によって各地に飛び散ったバードニックウェーブを偶然に浴びた4人の青年によって結成されたスーパー戦隊。空中戦闘を駆使し、バイラムの次元獣と対決する。

ジェットマンとなった5人。右から高校生の早坂アコ（ブルー）、農村青年の大石雷太（イエロー）、スカイフォース隊員の天堂竜（レッド）、令嬢の鹿鳴館香（ホワイト）、自由人の結城凱（ブラック）。

ジェットスピーダー

ブラックとブルーが乗る専用オートバイで、最高速度360km/h。ミサイルランチャーを装備。

ジェットストライカー

ハイドロエンジンを搭載したレッド専用のバギーで、最高速度500km/h。機銃とロケット砲を装備。

ジェットパンサー

最高速度400km/hの4WDで、イエローとホワイトが乗る。プラズマガトリング砲を装備。

ファイヤーバズーカ

ジェットストライカーが変形した、ジェットマンたちの必殺兵器。摂氏150万度のプラズマ光弾を放つ。

@用户2707638182

恐竜戦隊 ジュウレンジャー

KYORYU SENTAI ZYURANGER

１億7000万年の眠りから目覚めた古代人類、五部族の若者が変身した恐竜戦士。惑星ネメシスから出現した魔女バンドーラとその一味から地球を守るため、古代生物型の神・守護獣と力を合わせて活躍。後にドラゴンレンジャーが仲間に加わり、６人編成となった。

前作で作品の総決算を行った「スーパー戦隊シリーズ」は、新たなヒーロー像を構築した。それが『恐竜戦隊ジュウレンジャー』である。主人公たちを恐竜や古代生物のモチーフでデザインし、ＳＦファンタジー性をもった設定とドラマ作りが行われた。また、巨大ロボは「守護獣」として設定され、神秘的な存在として描かれることとなった。

ジュウレンジャーに変身する古代人類の戦士たち。右からゴウシ(マンモス)、ボーイ(タイガー)、ゲキ(ティラノ)、メイ(プテラ)、ダン(トリケラ)。右下はブライ(ドラゴン)。

ザウラーマシーン

1にティラノ、2にマンモスとタイガー、3にトリケラとプテラが乗る。マシーン戦を展開する。

守護獣

ティラノはヤマト族、マンモスはシャーマ族、トリケラはエトフ族、タイガーはダイム族、プテラはリシヤ族の守護獣である。

５体の守護獣が合体した戦車形態ダイノタンカーが変形し、誕生する超神。恐竜剣ゴッドホーンで敵と戦う。

ティラノザウルス

ジュウマンモス

トリケラトプス

サーベルタイガー

プテラノドン

@用户2707638182

五星戦隊ダイレンジャー

GOSEI SENTAI DAIRANGER

紀元前6000年のダオス文明に存在していたダイ族の子孫によって結成されたスーパー戦隊。全身に漲る気力と拳法、ヒーローたちのパートナーである気伝獣の力を駆使し、邪悪な妖力を操るゴーマ族と戦闘を繰り広げる。後にキバレンジャーが仲間に加わった。

五星戦隊ダイレンジャー

1993年2月19日〜1994年2月11日

『五星戦隊ダイレンジャー』では、シリーズのアクションを見直し、中国武術と気功術を取り入れた斬新で躍動感に溢れるものが採用された。それに伴いヒーローのモチーフにも東洋の神獣を採用し、前作『ジュウレンジャー』の良い部分が巧みに取り入れられている。物語で特筆すべき点は、チームリーダーが存在しない〝全員が主役〟ということであった。

気伝武人 龍星王

リュウレンジャーの気伝獣が武人変化した姿。専用武器の気伝飛龍棍を高速回転させて敵を切り裂く、大風車斬りが必殺技である。

気伝獣

リュウの気伝獣である龍星王が、シシの星獅子、テンマの星天馬、キリンの星麒麟、ホウオウの星鳳凰が四星合体した天空気殿と五星合体することで、大連王が完成。

五星合体 大連王

ダイレンジャーが操る巨大武人。ダイジャベリンで大連王大旋風、大王剣で必殺技の疾風怒濤を決め、巨大化したゴーマ怪人を撃破する。出力は2500万馬力。

キバーマシーン

5人のダイレンジャーが搭乗する専用オートバイで、最高速度300㎞/h、20mのジャンプ力を誇る。また、銃口から強力な気功弾を発射する。

ダイレンジャーになる、ダイ族の子孫。右から天重星 将児(テンマ)、天時星 知(キリン)、天火星 亮(リュウ)、天幻星 大五(シシ)、天風星 リン(ホウオウ)。左下は吼新星 コウ(キバ)。

@用户2707638182

獣将

隠流巨大獣将の術で呼び出す戦力。カクレンジャーたちがそれぞれの獣将に一体化することで、戦闘を開始する。

無敵将軍

5体の獣将が忍者合体して登場する力の神将で、隠流忍術極意・心技体の体を司る。専用武器の火炎将軍剣を振るい、巨大化した妖怪を撃破。

前作の中華イメージに続き、『忍者戦隊カクレンジャー』でもアジアンテイスト溢れるモチーフが採用される。まず、正義側には"忍者"が、そして敵側には"妖怪"がデザインに取り入れられ、日本古来のキャラクターたちが創造された。また、巨大ロボ的な存在も巻物と術で召喚する巨大な生命体"獣将"として設定され、徹底的に和風イメージを守り抜いた。

カクレンジャーになる隠流忍者の子孫たち。右からサイゾウ(ブルー)、鶴姫(ホワイト)、サスケ(レッド)、セイカイ(イエロー)、ジライヤ(ブラック)。

シャーク号

ニンジャホワイトが忍法で出現させた専用車両。レッドがブリッター、ブルーとホワイトがランチャー、イエローとブラックがスライダーに乗る。

忍者戦隊カクレンジャー

NINJA SENTAI KAKURANGER

戦国時代に誕生した忍者集団・隠流の子孫たちがスーパー変化し、カクレスーツを装着した姿。封印を解かれたことによって400年間の眠りから目覚めた妖怪を退治する使命をもつ。

@用户2707638182

超力戦隊オーレンジャー

CHORIKI SENTAI OHRANGER

U.A.(国際空軍)に所属する5人の隊員が、6億年前の超古代文明が残した超力を身につけ、OHスーツを装着した姿。宇宙の侵略者、マシン帝国バラノイアから地球を防衛する使命を帯びている。異空間で眠っていた超古代戦士、キングレンジャーが途中で仲間に加わった。

オーレンジャーとなるU.A.の隊員たち。右から四日市昌平中尉(グリーン)、丸尾 桃中尉(ピンク)、星野吾郎大尉(レッド)、二条樹里中尉(イエロー)、三田裕司中尉(ブルー)。左上は、古代人の戦士、リキ(キング)。

20周年記念作品である『超力戦隊オーレンジャー』は、それぞれの数字をモチーフとしたキャラクターマスクがデザインされ、巨大ロボは動物や古代文明のイメージで統一したことが特徴的である。ちなみに、この時期から『秘密戦隊ゴレンジャー』と『ジャッカー電撃隊』が「スーパー戦隊シリーズ」に加えられることになった。

超力モビル

スカイフェニックスをレッド、グランタウラスをグリーン、ダッシュレオンをブルー、ドグランダーをイエロー、モアローダーをピンクが操縦。

オーレンジャーロボ

5台の超力モビルが合体して完成する、2500万馬力の超力ロボ。ヘッドが5種類存在し、ヘッドチェンジすることで戦力が変化する。必殺技はクラウンファイナルクラッシュ。

ジェッターマシン

オーレンジャーの専用オートバイで、最高速度300km/h以上。各戦士のマスクと車両のカウリング部分が同様のデザインになっているが、性能は変わらない。

オーブロッカー

5台のブロッカーロボが超重合体して完成する機動ロボで、3500万馬力のパワーを発揮する。ツインブロッケンソードで敵を攻撃。

レッドパンチャー

オーレッド専用の巨大ロボ。2800万馬力のパワーを誇り、パンチによる連打攻撃を得意とする。両腕のガトリング砲から熱光弾を放つ。

超力戦隊
オーレンジャー

1995年3月3日〜1996年2月23日

@用户2707638182

『激走戦隊カーレンジャー』は、RVやミニ四駆などの自動車をモチーフとしてキャラクターが創造され、敵も宇宙中を暴れまわる宇宙暴走族というコンセプトでデザインが進められた。また、物語もナンセンスギャグを中心としたストーリーが展開され、これまでの「スーパー戦隊シリーズ」にはないコメディー要素満載の作品に仕上がっている。

ドラゴンクルーザー

ブルーが運転する。4WDタイプの宇宙生命体。ウインチのドラゴンクローを装備。

ペガサスサンダー

スポーツカータイプの宇宙生命体で、レッドが運転。走行形態から飛行形態に変形する。

スピーダーマシン

クルマジックパワーによって製作された高速マシンで、各車がレンジャービークルのコクピットとなる。

カーレンジャーとなるペガサスの社員。右から経理の八神洋子(ピンク)、メカニックの志乃原菜摘(イエロー)、営業の上杉 実(グリーン)、デザイナーの土門直樹(ブルー)、テストドライバーの陣内恭介(レッド)。

RVロボ

5台のレンジャービークルが激走合体して完成する巨大ロボで2000万馬力のパワーを誇る。スピード攻撃を得意とし、必殺技は高速回転して繰り出すRVソード激走斬り。

レンジャービークル

イエロービークル

レッドビークル

ピンクビークル

ブルービークル

グリーンビークル

カーレンジャーたちの夢の車の模型が、クルマジックパワーによって巨大マシンとなった。

ギガフォーミュラー

5人の専用武器、フェンダーソード、マフラーガン、エンジンキャノン、サイドナックル、バンパーボウを合体させて作り出す、強力な大型砲。

激走戦隊 カーレンジャー

GEKISO SENTAI CARRANGER

自動車会社ペガサスに勤務する5人の青年が、ハザード星人ダップに星座伝説の戦士として選ばれ、クルマジックスーツを装着した姿。宇宙の星々を花火のように爆発させようと企む宇宙暴走族ボーゾックと対決し、地球の平和を守り抜いた。

@用户2707638182

電磁戦隊メガレンジャー

電磁戦隊メガレンジャー DENJI SENTAI MEGARANGER

世界科学者連邦＝I.N.E.T.（アイネット）が開発した訓練用シミュレーション「メガレンジャー」の適性テストに合格した5人の高校生によって結成されたスーパー戦隊で、邪電王国ネジレジアの攻撃から三次元世界を防衛することが使命。後にI.N.E.T.特別開発班のチーフが加わり、6人編成となった。

1997年2月14日～1998年2月15日

サイバースライダー

デジタル空間ハイウェイを最高速度550㎞／hで移動するサーフボード型飛行マシン。

デジタンク

レスキュー活動にも対応可能な特殊機動装甲車。デジハンドやキャノン砲を装備。

オートスライダー

メガシルバー専用マシンで、ホバーモードからバイクモードに変形。スライダービームを放つ。

右から I.N.E.T.特別開発班チーフの早川裕作（シルバー）。今村みく（ピンク）、並樹 瞬（ブルー）、伊達健太（レッド）、城ヶ崎千里（イエロー）、遠藤耕一郎（ブラック）はメガレンジャーとしてI.N.E.T.に選抜された高校生である。

デルタメガ

ギャラクシーメガをサポートする4000万馬力のパワーを誇る巨大ロボ。両腕に装備されたガトリングスラスターを発射し、敵を粉砕。

『電磁戦隊メガレンジャー』は、放送当時、急速に拡大したパソコンやインターネットの普及を受けて〝デジタル〟の要素を多く盛り込んだ内容となった。ゆえにヒーローたちの格闘シーンや特撮カットにもコンピューターグラフィックス、デジタル合成などを多用して〝未来感〟を意識した作品として制作されている。ヒーローになる主人公たちも『ターボレンジャー』以来の高校生に設定された。

メガシャトル

メガシップ

メガシップは、I.N.E.T.のメンバー100人が乗船している移動型前線基地兼宇宙ステーション。メガシャトルは、スペースシャトルタイプの小型宇宙艇である。

ギャラクシーメガ

メガシップとメガシャトルが電磁合体することで完成する、5000万馬力の巨大ロボ。ブースターライフルとメガサーベルが戦力である。

@用户2707638182

星獣戦隊ギンガマン SEIJU SENTAI GINGAMAN

3000年前、星獣たちとともに宇宙海賊バルバンを封印した、ギンガの森の戦士たちの133代目の継承者が結成。甦ったバルバンを討伐する使命を帯びてギンガの森を後にし、活動を開始した。後に黒騎士が仲間に加わり、6人体制となる。

銀星獣

ギンガレオンはレッド、ギンガリラはブルー、ギンガベリックはイエロー、ギンガルコンはグリーン、ギンガットはピンクの銀星獣。

ギンガイオー

5体の銀星獣が星獣合体することで完成する、2500万馬力の銀河獣士。ガルコンボーガン流星弾と銀鎧剣 銀河獣王斬りで敵を撃破する。"ギンガの光"によって戦闘力を強化。

獣走馬

"ギンガの森"に棲む、ギンガマンたちの愛馬で、出撃する際には鎧を装着。通常の馬の6倍もの能力を秘めており、300km/hで地上を走行する。

前作の最新科学とは異なり"自然"を意識したのが『星獣戦隊ギンガマン』である。地球のどこかに存在する"ギンガの森"で暮らす銀河戦士たちが"アース"と呼ばれる神秘の力を発揮し、宇宙海賊バルバンの侵略から人類を守るという、ファンタジックな内容となっている。また、主人公の兄が敵戦士との対決によって行方不明になるなど、ややシリアスな内容が加味された意欲作といえよう。

銀河獣撃弾

獣撃棒から変形させた獣撃波を5人で構え、大地のパワーとアース、星獣パワーをスパークさせた光弾を同時発射。

ガレオパルサー

5人がもつ"ギンガの光"を集中させることで誕生した、特殊装甲二輪車。最高速度500km/hで疾走。

星獣戦隊ギンガマン

1998年2月22日～1999年2月14日

ギンガマンとなる、133代目の銀河戦士たち。右からヒカル(イエロー)、ハヤテ(グリーン)、リョウマ(レッド)、レッドになるはずだったヒュウガ(黒騎士ヒュウガ) ゴウキ(ブルー)、サヤ(ピンク)。

@用户2707638182

救急戦隊ゴーゴーファイブ

KYUKYU SENTAI GO-GO-V

巽防災研究所が結成したレスキューチームで、父が秘かに製作していたアンチハザードスーツを5人兄弟が着装した姿。地球に大災害をもたらそうとする災魔一族から人類を守るため、超科学装備を駆使して活躍する。

ライフバード ブレイカーモード

ゴーゴーファイブ専用の鳥型多機能変形ツールのライフル形態。プラズマ光弾を発射する必殺技、カラミティブレイカーで敵を木っ端微塵に粉砕する。

ゴーゴーファイブが敵との巨大戦の際に乗る巨大ロボで、2300万馬力のパワーを発揮。ブレイバーソードのプラズエネルギーで、必殺技、ビクトリープロミネンスを放つ。

99マシン

5台の99マシンが緊急合体することによって巨大ロボ、ビクトリーロボが誕生する。

コマンドアタッカー

本体のファイヤーコマンダーとサイドカーのアタッカーポッドで構成された、サイドカー型マシン。

ゴーゴーファイブこと巽家の5人兄弟。右から警察官のダイモン(イエロー)、化学消防班員のナガレ(ブルー)、レスキュー隊員のマトイ(レッド)、ヘリコプター部隊員のショウ(グリーン)、救急救命士のマツリ(ピンク)。

99マシンなどの大型装備の輸送を主任務とした列車型巨大マシン。巨大ロボのグランドライナーにも変形する。

〝災害救助〟〝人命救助〟に力点を置いた『救急戦隊ゴーゴーファイブ』は、消防士や警察官、救急救命士を職業とする5人兄弟を主人公に据えて〝地球の未来を守るレスキュー戦士たちの活躍〟というコンセプトで制作された。また、戦闘や救助に関わる装備を登場させ、メカニックの魅力を表現する特撮カットが多数用いられた。

救急戦隊ゴーゴーファイブ

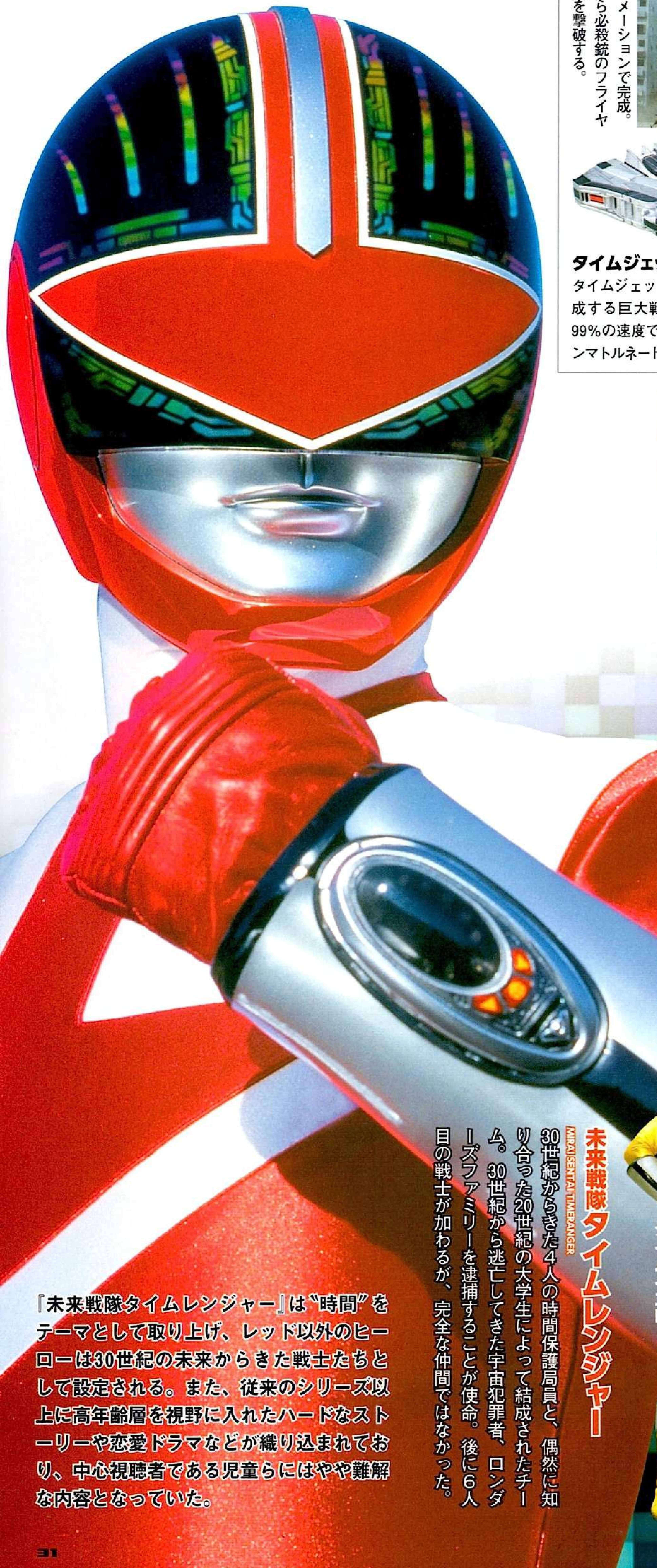
1999年2月21日～2000年2月6日

@用户2707638182

未来戦隊タイムレンジャー

TIMERANGER

2000年2月13日～2001年2月11日



『未来戦隊タイムレンジャー』は"時間"をテーマとして取り上げ、レッド以外のヒーローは30世紀の未来からきた戦士たちとして設定される。また、従来のシリーズ以上に高年齢層を視野に入れたハードなストーリーや恋愛ドラマなどが織り込まれており、中心視聴者である児童らにはやや難解な内容となっていた。

30世紀からタイムゲートを通じて現代に送り込まれる飛行マシンで、タイムボルテックス・エネルギーで活動。5機が合体してタイムロボが完成する。

タイムジェット1　タイムジェット2　タイムジェット3　タイムジェット4　タイムジェット5

タイムロボα（アルファ）

タイムジェットの地上戦用フォーメーションで完成する巨大ロボ。1500万馬力を誇り、時空剣を使ったパワー戦闘を繰り広げる。

タイムロボβ（ベータ）

スピード戦用のフォーメーションで完成。M4で飛行し、空中から必殺銃のフライヤーマグナムを放って敵を撃破する。

タイムジェットγ（ガンマ）

タイムジェットが合体して完成する巨大戦闘機。光速の99%の速度で高速回転し、ガンマトルネードを発生させる。

プロバイダス

30世紀にある時間保護局の基地、プロバイダーベースから、タイムジェットを現代に送り出す発進ロボ。

ボルテックバズーカ

5人のボルユニットを合体させることで完成するバズーカ砲。冷凍ビームで犯罪者を捕らえ、圧縮冷凍する。

タイムフライヤー

タイムレンジャーが搭乗する小型戦闘艇で、最高速度はM2.5。フライヤーカノンやプラズマバルカンを装備。

タイムレンジャーの6人。右から時間保護局・新人捜査官のアヤセ（ブルー）、インターシティ警察・マフィア担当捜査官のユウリ（ピンク）、大学生の浅見竜也（レッド）、CGCメンバーの滝沢直人（ファイヤー）、ハバード星人のシオン（グリーン）、元格闘技プロ選手のドモン（イエロー）。

未来戦隊タイムレンジャー

MIRAI SENTAI TIMERANGER

30世紀からきた4人の時間保護局員と、偶然に知り合った20世紀の大学生によって結成されたチーム。30世紀から逃亡してきた宇宙犯罪者、ロンダーズファミリーを逮捕することが使命。後に6人目の戦士が加わるが、完全な仲間ではなかった。

@用户2707638182

パーフェクトでエターナルなのメッセージ

道半ば、立ち止まり、振り返る。
彼らはいつでも見守っている。ときに優しく、ときに厳しく。
だから前を向く。この先の出会いもきっとレガシーとなる。
ありがとう「スーパー戦隊」！　これまでも、これからも!!

梶淳（テレビ朝日 総合ビジネス局プロデューサー）

色分けされたヒーローがチームで戦うという、究極にシンプルで独創的なコンセプトをもつだけでなく、ヒーローがもつべきすべての要素を備えた集大成でもある。それがスーパー戦隊。子供の頃、『ゴレンジャー』と出会ってから40年、今日に至るまで新たな「スーパー戦隊」の誕生を見続けられていることには、感謝の気持ちで一杯です。これからも世代を超え、国境を越え、多くの子供たちを笑顔にしてほしいです。

鈴木庸尤（映像プロデューサー・日本工学院映画講師）

戦隊大好きすぎて、事務所もＪＡＥさんに入っちゃった宮村です。『ゴーゴーファイブ』に出演させてもらったときは嬉しくて、夢のようでした♥　今は子供と一緒に応援しています！　カラオケに子供と行って、『ダイレンジャー』とか『サンバルカン』とか。もーほんとに名曲が多いですよね！これからも、応援しています！

宮村優子（女優・声優）

誰だって子供の頃がある。未来は君たちが作る。
子供たちは強いものが好きだ。弱いものがいて、それをいじめるものがいる。
だから強いものがやっつけてくれる。
グループアクションが生まれてから、半世紀になろうとしている。昔の子供はパパになり、ママになった。スーパー戦隊のヒーロースーツを着たママさんたち、息子を抱いて立っている。レッド、ピンク、イエロー。おじいちゃんは眼を細める。
80年代の頃、先輩たちの後をついでオレが参加したのは『デンジマン』。主題歌が聴こえてくる。「戦いの海は牙でこげ、かなしみの海は愛でこげ」。
継続は力、めざせデンジマン、急げデンジマン、平和な社会を作るため！

小林義明（株式会社自由メディア 代表取締役社長）

ＪＡＳＲＡＣ 出 1700204-701
楽曲：ああ電子戦隊デンジマン 作詞：小池一夫 作曲：渡辺宙明
©1980 by TV ASAHI MUSIC CO., LTD.

Super Sentai I would not know a world without it. Amazing costumes, flashy vehicles and giant robot vs. monster fights. It is everything a kid wants. I am a better person having it in my life.
私にとって、「スーパー戦隊」のない世界は考えられません。素晴らしいコスチューム、華やかな乗り物、そして巨大ロボットと怪獣の戦い。子供たちが、好きなものばかりです。「スーパー戦隊」に出会えて、良かったです。

Scott Zillner (Power Morphicon promoter)
スコット・ジルナー（「パワーモーフィコン」プロモーター）

「41スーパー戦隊」。常に同じ熱量を保つその歴史は、小中学校の道徳の教科書に載せるべき！　大切なことは「スーパー戦隊シリーズ」にすべて詰まっている。子供向けだけど、子供騙しじゃない。シリーズに関わる、すべての皆様に感謝。私も、スーパー戦隊の役に立ってから死にます。

宮島咲良（フリーアナウンサー・タレント）

「スーパー戦隊シリーズ」には、20年以上の長きにわたり関わらせていただきました。自分の仕事としては、先達たちが作り上げた優れたフォーマットを、その時代ごとに調整、アレンジしてきたような気がします。そしてシリーズのもうひとつの側面であるパワーレンジャーとしても、日本とは違ったアプローチで創意工夫を続けたからこそ、今もなお健在でいられるのだろうと思います。まだまだガンバレ！　スーパー戦隊！

野中剛（デザイナー）

@用户2707638182

スーパー戦隊へ……

ヒーローたち

「スーパー戦隊シリーズ」は、永きにわたりさまざまな人たちに何かを与え続けている。ここでは、各界で活躍されている方々から、そんな「スーパー戦隊」へのエールをいただいた。40年以上継続しているということは、何にも勝るパワーなのだ。

すいません。白状します。「スーパー戦隊」、ちゃんと見ていません。でも過去に一作、強烈に思い入れのあるスーパー戦隊がある。『ジェットマン』だ。鬼才、井上敏樹が生み出したこの作品は、のちの特撮作品に大いなる影響を与えたと個人的に思っている。『ジェットマン』がなければ、恐らく「平成ガメラ」も『ティガ』も『クウガ』も『シン・ゴジラ』すら、なかったかもしれない。それほどこの作品は衝撃的で、冒険的であった。「戦うトレンディスーパー戦隊」と揶揄されるように敵も味方も恋愛関係ドロドロ、とにかく複雑な人間模様が展開され、ドラマのみでスーパー戦隊がほぼ変身しない回すらある。今では考えられない暴挙！　いや快挙なのだ。そしてもつれにもつれた愛憎の運命の糸は、最後には美しくも切なく終幕する。恐らくこれほど破天荒な作品は二度と創られないだろう。だがスーパー戦隊には無限の可能性がある。長い年月を経て完成されたフォーマットさえ守れば、モチーフや世界観は自由自在。これからも制約に囚われない衝撃的なスーパー戦隊が生まれることを期待しています。

長谷川圭一（脚本家）

シリーズ通算1000回目を迎えた『カーレンジャー』放送時に0歳だった私は、2000回目の『ジュウオウジャー』放送時にはハタチになっていました。たくさんのレジェンドたちに見守られ、私は大人になることができました！　私の人生の2倍も先輩である偉大な「スーパー戦隊シリーズ」、これからも世界中に夢を与え続けてください！

安重柚菜（キャンパスクイーン）

スーパー戦隊特集号、おめでとうございます！　私は『ゴレンジャー』に強く惹かれ、殺陣を担当した大野剣友会に入門し、今ではTokusatsu Hollywood『フジヤマイチバン』を企画するほどです。５色の戦士が振り返る仕草や交差するアクションは日本ならではの動きだと、ハリウッドで働いて初めてわかりました。チームアクションの草分けである「スーパー戦隊シリーズ」が、永遠に続くことを米国より祈っております。 Super Sentai Love!

Michi Yamato（Tokusatsu Hollywood『FUJIYAMA ICHIBAN』原作者）

カラフルで個性的、そしてグループの結束力で悪に立ち向かうスーパー戦隊ヒーローは、眩いばかりの存在感がありました。縁あってライバル(と勝手に自負しています)番組を手がけた時は、追い付き追い越せと力を込めたものです。これからも子供たちを明るい方向へ導くドラマであり続けてください。TVの前で、応援しています。

石井信彦（東宝株式会社 映像事業部／『超星神グランセイザー』プロデューサー）

「スーパー戦隊シリーズ」は、この40年「日本人が生まれて初めて見るアクション映画」であり続けた。そのことが支えたこの国の文化の厚みは、計量し難いほど大きなものがある。

切通理作（批評家・エッセイスト）

継続と挑戦が、「スーパー戦隊」の大きな魅力だと思います。特に現在放送中の『ジュウオウジャー』は、『タイムレンジャー』のファンである僕にとって、何かを感じずにはいられません。40作目との別れを惜しみつつ、41作目の誕生をお祝いいたします。

雨宮 哲（アニメーション監督・アニメーター）

怪獣画家の開田裕治さんから紹介していただいた企画者104の久保宗雄さんから、『バトルフィーバー J』の第５話から最終回までの脚本をお借りして、同人誌「衝撃波Q」の増刊号、「バトルフィーバー J 特集号」の原稿執筆にとりかかった。ときに西暦1982年、東京で暮らし始めてすぐの大学３年生の頃。結局この増刊号は発刊されず、私の駄文も幻になったのだけれど、後に開田さんからアニメ、特撮関連のライター、中島紳介さんをご紹介していただき、中島さんからアルバイトとして当時のスターチャイルドに口を利いていただいたのである。すべては『バトルフィーバー J』から始まったと言っても過言ではない。1984年のスターチャイルドのアルバイト採用から三十数年で私は業界を去りましたが、「スーパー戦隊シリーズ」は継続しております。休まずに。

大月俊倫（映像プロデューサー・円谷プロダクション 取締役）

@用户2707638182

ガオレンジャーに変身する力を有した6人の青年。右から鮫津海(ブルー)、牛込草太郎(ブラック)、獅子 走(レッド)、鷲尾岳(イエロー)、大神月麿 (シルバー)、大河 冴(ホワイト)。

百獣戦隊ガオレンジャー HYAKUJU SENTAI GAORANGER

大地の精霊、パワーアニマルに選ばれし、5人の青年が結成したスーパー戦隊で、地球を蝕む鬼・オルグに挑んだ。戦いの途中で1000年の眠りから目覚めた戦士が加わり、6人編成となる。

ウルフローダー

ガオウルフの化身であり、ガオシルバーの専用オートバイ。最高速度350km/hで走行する。

ソウルバード

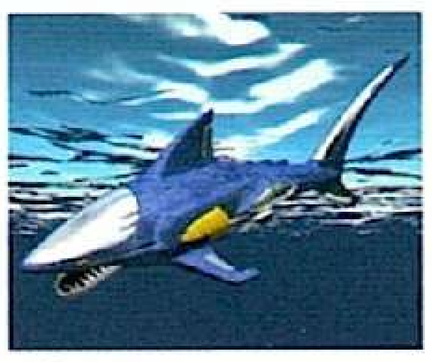
パワーアニマルの病を癒やす"ガオの心臓"であり、ガオの巨人たちのコクピットにもなる生物である。

パワーアニマル

地球の生命力が動物の姿となったもので"大自然の精霊"ともいえる存在。左の5体が百獣合体することで、ガオキングが誕生する。

ガオタイガー

ガオバイソン



ガオシャーク

ガオイーグル

ガオライオン

ガオキング

ガオライオンが中核となっている精霊の王。2000万馬力のパワーを誇るが、ソウルバードが一体化すると出力が2倍になる。

破邪百獣剣

5人の破邪の爪を合体させた必殺武器。ガオソウルで形成された刃で、オルグを一刀両断にする。

譜 ACT. 2 [21st century]

『百獣戦隊ガオレンジャー』は"自然回帰"をテーマに、"野生動物"をイメージしたヒーローたちと、彼らをサポートする精霊・パワーアニマルの演出に力点を置いて制作された。また、ドラマ内容もこれまで以上に明快となっており、児童から大人までの幅広い視聴者を納得させるストーリー展開が評価されたことで、多くのファンを獲得する作品となっている。

百獣戦隊ガオレンジャー

2001年2月18日〜2002年2月10日

@用户2707638182

40大スーパー戦隊の系

右から疾風流忍者の尾藤吼太（イエロー）、野乃七海（ブルー）、椎名鷹介（レッド）。迅雷流忍者の霞 一甲（カブト）、霞 一鍬（クワガ）。

シノビマシン

ハリケンレオン　ハリケンドルフィン　ハリケンホーク

各流派のカラクリ技術、風神・雷神エネルギー、現代テクノロジーが融合して完成した巨大マシン。

旋風神

ハリケンホーク、ハリケンドルフィン、ハリケンレオンが忍風合体した、1000万馬力のカラクリ巨人。ソードスラッシャーで分身幻斬りを炸裂させる。

ブルーウインガー

レッドウインガー

イエローウインガー

風神エネルギーエンジンがセットされたハンググライダー。最高速度500km/hで空中を自在に飛行する。

〝忍者〟がモチーフとなった『忍風戦隊ハリケンジャー』ではあるが、やはり最大の特徴は作品に登場するヒーローたちが疾風流、迅雷流、宇宙統一忍者流などに分かれているという、極めて変則的な設定が取り入れられたスーパー戦隊だったことであろう。また、敵にも個性的なキャラクターが多数登場したことで、新たなファンも誕生した。

バリサンダー

ゴウライジャーの専用オートバイで最高速度750km/h。サンダービームを放ち、敵を撃破する。

忍風戦隊 ハリケンジャー

NINPU SENTAI HURRICANEGER

忍風館第507期の生徒である疾風流のおちこぼれ忍者３人が20年ぶりに変身することになった姿。迅雷流忍者の電光石火ゴウライジャーや宇宙統一忍者流のシュリケンジャーと力を合わせて宇宙忍群ジャカンジャに挑み、忍者の究極奥義である〝アレ〟を守り抜く。

忍風戦隊ハリケンジャー

2002年2月17日～2003年2月9日

@用户2707638182

アバレンジャーとなる爆竜戦士。右からダイノアースの竜人・アスカ(ブラック)、仲代壬琴(キラー)、樹らんる(イエロー)、三条幸人(ブルー)、伯亜凌駕(レッド)。

爆竜 プテラノドン　**爆竜 トリケラトプス**　**爆竜 ティラノサウルス**

ティラノサウルスがレッド、トリケラトプスがブルー、プテラノドンがイエローのダイノガッツと同調し、パートナーになっている。

ティラノ、トリケラ、プテラの3体が爆竜合体して誕生する戦闘巨人で、2200万馬力のパワーを誇る。爆竜電撃ドリルスピンで敵を粉砕。

ダイノボンバー

アバレッド、アバレブルー、アバレイエローのダイノウエポンを合体させることで完成する大型砲。必殺ダイノダイナマイトを発射する。

爆竜戦隊アバレンジャー BAKURYU SENTAI ABARANGER

別次元にあるもうひとつの地球・ダイノアースに住む竜人と爆竜の呼びかけで、太古の生命の力〝ダイノガッツ〟をもった若者が変身した爆竜戦士。侵略の園・エヴォリアンからアナザーアース(地球)を守ることが使命。

ライドラプター

ブルーラプター　レッドラプター　ブラックラプター　イエローラプター

ダイノアースの小型恐竜。アバレンジャーたちを乗せて地上を最高速度150km/hで疾走し、エヴォリアンと騎馬戦を繰り広げる。

『爆竜戦隊アバレンジャー』では〝恐竜〟をモチーフとした爆竜ヒーローが創造され、生命力を表現した〝アバレ〟や〝ダイノガッツ〟をテーマに据えた作品であった。各ストーリーの所々にコメディーがちりばめられ、児童にも好まれる内容となっていたが、一方でヒーローと敵キャラクターとのラブロマンスやアンチヒーローの登場などのハードな展開も織り込まれていた。

爆竜戦隊アバレンジャー

2003年2月16日〜2004年2月8日

@用户2707638182

"警察"をテーマとした『特捜戦隊デカレンジャー』は、既に人類と異星人たちが当たり前のように交流しているという"近未来世界"を舞台としたシリーズであった。ヒーローたちは宇宙警察地球署に所属する刑事であり、宇宙犯罪者や武器商人に立ち向かう"刑事ドラマ"として、毎回展開していく。

マシンブル
グリーンとピンクが乗る通常捜査用車両。最高速度350km/h。

マシンドーベルマン
レッドとイエローが乗る通常捜査用車両で、最高速度500km/h。

マシンボクサー
ブレイクが乗る特キョウ専用の特殊一輪車。最高速度330km/h。

マシンハスキー
ブルー専用の特殊白バイで最高速度300km/h。高い機動力を誇る。

地球署のメンバー。右からセンちゃんこと江成仙一（グリーン）、ウメコこと胡堂小梅（ピンク）、ホージーこと戸増宝児（ブルー）。テツこと姶良鉄幹（ブレイク）、ジャスミンこと礼紋茉莉花（イエロー）、バンこと赤座伴番（レッド）。

デカレンジャーロボ

右の５台のデカマシンが特捜合体して完成する、巨大ロボ。ジャッジメントソードやジャイロワッパーを装備。

デカマシン

パトアーマー

パトシグナー

パトストライカーにレッド、パトジャイラーにブルー、パトレーラーにグリーン、パトアーマーにイエロー、パトシグナーにピンクが搭乗する。

パトストライカー

パトジャイラー

パトレーラー

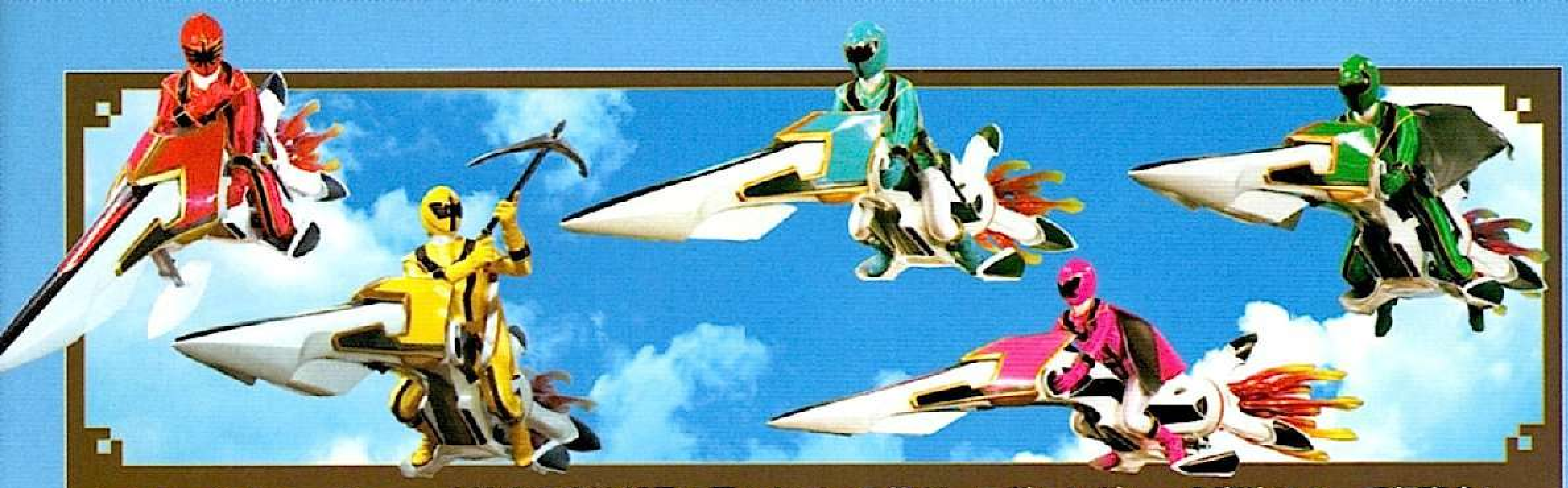
特捜戦隊 デカレンジャー
TOKUSO SENTAI DEKARANGER

宇宙警察地球署のデカ（刑事）６人がエマージェンシー（緊急変身）し、デカスーツを装着した姿。地球各地で悪事を働く宇宙犯罪者アリエナイザーをジャッジメントし、逮捕することが任務である。

特捜戦隊デカレンジャー

2004年2月15日〜2005年2月6日

@用户2707638182



スカイホーキー 小津家の魔法部屋に置かれている箒が、マジレンジャーの魔法によって超変身した高速マシンで、５人全員が所有している。最高速度300km/hで空中を飛行。

『魔法戦隊マジレンジャー』は〝神秘！ 冒険！ 勇気！ それは魔法！″のコンセプトのもとで制作された作品であり、ファンタジックなストーリーが展開された。また、家族全員が正義の戦士という、これまでのシリーズにはない設定が与えられている。本作では巨大ロボではなくヒーローたちが魔法で変身した巨大戦士が合体した魔人が登場した。

マジキング

5大マジマジンが魔神合体することで誕生する魔人の王。2300万馬力のパワーをもち、専用剣のキングカリバーを振るい、敵めがけてキングカリバー魔法斬りを炸裂させる。

マジマジン

マジレンジャーが魔法大変身した姿。レッドがマジフェニックス、イエローがマジガルーダ、ブルーがマジマーメイド、ピンクがマジフェアリー、グリーンがマジタウロスになっている。

マジフェニックス　マジガルーダ　マジマーメイド　マジフェアリー　マジタウロス

マジレンジャーに魔法変身する小津家の兄弟。右から長男の蒔人(グリーン)、長女の芳香(ピンク)、三男の魁(レッド)、次男の翼(イエロー)、次女の麗(ブルー)、ヒカルこと天空聖者サンジェル(シャイン)。

マジドラゴン

マジガルーダ、マジマーメイド、マジフェアリー、マジタウロスの４体が魔竜合体した、伝説のドラゴン。

マジシャイン　マジグリーン　マジイエロー　マジブルー　マジピンク　マジレッド

魔法戦隊マジレンジャー

MAHO SENTAI MAGIRANGER

天空聖者と地上人の間に誕生した５人兄弟が結成したスーパー戦隊で、それぞれが強力な魔法を発揮。天空聖者の父とその弟子である勇者、魔法使いの母も仲間に加わり、地上界の侵略を企む地底冥府インフェルシアに立ち向かった。

2005年2月13日~2006年2月12日

@用户2707638182

デュアルクラッシャー

サージェス財団がボウケンジャーのために開発した、新型ボウケンアームズ。銃身にドリルとミキサーのヘッドパーツを付け替えることが可能であり、それによって物体を破壊したり、敵を拘束する機能が使い分けられる。

轟轟戦隊 ボウケンジャー

GOGO SENTAI BOUKENGER

危険なパワーを秘めた秘宝「プレシャス」を、悪の団体・ネガティブシンジケートの手から守る民間組織「サージェス財団」に所属する冒険者たちのチーム。プレシャスの回収が基本的任務だが、暴走した場合は破壊することもある。途中で仲間が加わり、6人体制となった。

ダイボウケン

ゴーゴービークルNo.1～No.5が轟轟合体して完成する巨大ロボ。轟轟剣で、必殺技アドベンチャードライブを炸裂させる。

ゴーゴービークル

ゴーゴートレーラー

No.1～No.5までのゴーゴービークルが合体した巨大トレーラー。最高速度320km/hで走行し、1200万馬力のパワーを発揮。

レッドがゴーゴーダンプ、ブラックがゴーゴーフォーミュラ、ブルーがゴーゴージャイロ、イエローがゴーゴードーザー、ピンクがゴーゴーマリンを操縦する。

から伊能真墨(ブラック)、西堀さくら(ピンク)、チーフの明石 暁(レッド)、1体(大剣人ズバーン)おいて最上蒼太(ブルー)、間宮菜月(イエロー)、高丘映士(シルバー)。

〝冒険〟をメインテーマとした『轟轟戦隊ボウケンジャー』は、地球各地に眠る秘宝を正義と悪の双方が探すという〝トレジャーハンティング〟をモチーフにした作品として制作された。ゆえに、ヒーローの使命は秘宝の悪用を阻止することであり、敵を殲滅することではないところが大きな特徴といえる。また、特筆すべきはミニチュアを使用した特撮シーンがこれまで以上に多くなっていた点だろう。

轟轟戦隊 ボウケンジャー

2006年2月19日～2007年2月11日

@用户2707638182

獣拳戦隊ゲキレンジャー

2007年2月18日～2008年2月10日

獣拳戦隊 ゲキレンジャー
JUKEN SENTAI GEKIRANGER

心に"獣"を感じた際に湧き上がる情熱、「激気（げき）」を全身に漲らせた拳士。「激獣拳ビーストアーツ」を極めており、「臨獣拳アクガタ」を駆使する悪の組織、臨獣殿に立ち向かう。当初は３人だったが仲間が加わり、５人のスーパー戦隊となる。

ゲキビースト

レッドがゲキタイガー、イエローがゲキチーター、ブルーがゲキジャガーを出現させ、巨大化した臨獣殿との戦闘を行う。

ゲキトージャ

タイガー、チーター、ジャガーの3体のゲキビーストが獣拳合体し、誕生する巨大拳士。回転打撃の大頑頑拳、回転蹴りの大頑頑脚を繰り出す。

ゲキレンジャーにビースト・オンする５人。右から深見レツ(ブルー)、久津ケン(チョッパー)、漢堂ジャン(レッド)、深見ゴウ(バイオレット)、宇崎ラン(イエロー)。

"中国拳法"と"動物"をモチーフにして企画された『獣拳戦隊ゲキレンジャー』は、カンフーアクションを多く取り入れ、シリーズ内でもかなりのリアル格闘を目指した。また、正義と悪の両方が「獣拳」という拳法の使い手であり、互いに技を磨きながら成長していくという作劇は、これまでには見られなかったシチュエーションであろう。しかしながら、各話の内容が暗くなることは避け、児童が共感できるようなドラマ作りにも配慮がされた。

ゲキバズーカ（激激砲）

レッド、ブルー、イエローが使用する必殺武器。３人の激気を集中させることで破壊力を増幅し、敵めがけて発射する。

@用户2707638182

ゴーオンジャーとゴーオンウイングスになる青年たち。右から須塔大翔(ゴールド)、須塔美羽(シルバー)、石原軍平(ブラック)、楼山早輝(イエロー)、江角走輔(レッド)、香坂 連(ブルー)、城 範人(グリーン)。

『炎神戦隊ゴーオンジャー』では、自動車や飛行機、列車などの"マシン"をモチーフとし、「炎神(エンジン)」という架空のメカ生命体とヒーローの関わりを強くアピールした内容となった。また、正義側と敵側の関係を単純化して"勧善懲悪"を目指したことで、幼児から大人までが楽しめる物語が展開されて大人気を獲得することとなる。

炎神戦隊ゴーオンジャー

2008年2月17日～2009年2月8日

エンジンオー

スピードル、バスオン、ベアールVが炎神合体し、完成する巨人。そのパワーは1200万馬力で、ゴーオンソードを使い、必殺技、ゴーオングランプリを繰り出す。

炎神

スピードル

バスオン

ベアールV

スピードルはレッド、バスオンはブルー、ベアールVはイエローの相棒として活躍している。

バルカ

ガンパード

バルカはグリーン、ガンパードはブラックの相棒として活躍する炎神で、ガンバルオーやエンジンオーG6などの一部になる。

ギンジロー号

ゴーオンジャーたちが移動や生活に使用している、フルコンバージョンキャンピングカー。戦闘基地として使用することも可能である。

スーパーハイウェイバスター

5人のゴーオンギアを合体させることで完成する、超高トルクエネルギーバズーカ。炎神の魂「炎神ソウル」をセットして強烈なレーシングバレットを発射する。

ゴーオングリーン

ゴーオンブルー

ゴーオンレッド

ゴーオンゴールド

ゴーオンシルバー

ゴーオンイエロー

ゴーオンブラック

炎神戦隊ゴーオンジャー

ENGINE SENTAI GO-ONGER

異次元にあるマシンワールドからきた正義のメカ生命体・炎神の協力によってヒューマンワールドに住む5人の若者たちがレッツ！GO-ON(変身)した姿。地球環境の汚染を企てる蛮機族ガイアークに敢然と立ち向かう。戦いの中、ゴーオンウイングスが仲間に加わり、7人体制のスーパー戦隊となった。

@用户2707638182

「侍戦隊シンケンジャー」は、その名の通り"侍"をモチーフに日本風ヒーローとして誕生した。チームリーダーが"殿"で、他のメンバーは"家臣"という、武士道を意識した設定はこれまでにはない新鮮なもので、多くの視聴者に受け入れられた。また、変身アイテムが筆、専用武器が刀というのも興味を引いた。

シンケンジャーとなる者たち。右から白石茉子(ピンク)、梅盛源太(ゴールド)、谷千明(グリーン)、花織ことは(イエロー)、志葉丈瑠(レッド)、池波流ノ介(ブルー)。

折神

龍折神

獅子折神

猿折神

熊折神

亀折神

獅子折神はレッド、龍折神はブルー、亀折神はピンク、熊折神はグリーン、猿折神はイエローが操る動物型式神である。

シンケンオー

獅子、龍、亀、熊、猿の折神が侍合体し、誕生する侍巨人。1400万馬力のパワーとモヂカラを増幅するダイシンケンを駆使して活躍する。

烈火大斬刀 大筒モード

レッドの専用武器である烈火大斬刀が、大筒に変形したモード。セットした秘伝ディスクのモヂカラを増幅し、弾丸のように発射する。

侍戦隊シンケンジャー SAMURAI SENTAI SHINKENGER

書いた文字に宿る力を具現化するモヂカラを代々受け継ぎ、300年間、人類を脅かす外道衆と戦い続けてきた侍のリーダー、シンケンレッドが、4人の家臣、1人の幼なじみと結成したスーパー戦隊である。

シンケンレッド
(志葉 薫)

真の志葉家十八代目当主、志葉薫が一筆奏上(変身)した姿。強力な「火」のモヂカラと剣の技を駆使し、アヤカシと対決。

侍戦隊シンケンジャー

2009年2月15日～2010年2月7日

@用户2707638182

ゴセイマシン

ゴセイドラゴンをレッド、ゴセイフェニックスをピンク、ゴセイスネークをブラック、ゴセイタイガーをイエロー、ゴセイシャークをブルーが召喚。

ゴセイグレート

ドラゴン、フェニックス、スネーク、タイガー、シャークが天装合体して出現する巨大ロボ。ドラゴンソードが武器。

天装戦隊 ゴセイジャー

TENSO SENTAI GOSEIGER

護星界から地上へ研修にきていた５人の見習い護星天使が、天装（変身）した姿。全身に秘めたゴセイパワーとゴセイマシンを駆使して、ウォースター、幽魔獣、マトリンティス、救星主のブラジラとその手下たちが結成した４種の軍団から、地球の平和を守り抜く。

ゴセイジャーになる護星天使たち。右からモネ（イエロー）、アグリ（ブラック）、アラタ（レッド）、エリ（ピンク）、ハイド（ブルー）。

ゴセイバスター

５人のゴセイウェポンを合体させた超強力大型砲。５種類のゴセイカードをセットし、必殺技を放つ。

ゴセイナイト

１万年前に幽魔獣と対決したグランディオンヘッダーが超進化した、地球を清める宿命の騎士。剣の技に優れる。

シリーズ初の〝天使〟をモチーフとした『天装戦隊ゴセイジャー』は〝地上に舞い降りた希望と幸福の翼〟という意味を込めて制作された作品であり、明るいヒーローたちが設定された。また、本作では１年間で４つの敵組織が登場するという試みが行われたことも特筆すべき点である。

2010年2月14日～2011年2月6日

@用户2707638182

ゴーカイオー

5台のゴーカイマシンが海賊合体した巨大ロボで、1000万馬力のパワーを発揮。2本のゴーカイケンが武器。

ゴーカイマシン

ゴーカイガレオン

ゴーカイジェット

ゴーカイトレーラー

ゴーカイレーサー

ゴーカイマリン

ゴーカイガレオンをレッド、ゴーカイジェットをブルー、ゴーカイトレーラーをイエロー、ゴーカイレーサーをグリーン、ゴーカイマリンをピンクが操縦。

「スーパー戦隊シリーズ35周年記念作品」の『海賊戦隊ゴーカイジャー』は〝海賊〟をモチーフとして制作された作品だが、最大の特徴は歴代の34大スーパー戦隊のヒーローたちに変身できる能力を身につけていたことであろう。この設定によって、シリーズのヒーローたちが視聴者に再認識されたことは大きな功績と言える。また、過去のシリーズに登場したキャラクターがゲストとして出演することも話題となった。

海賊戦隊ゴーカイジャー KAIZOKU SENTAI GOKAIGER

伝説の「お宝」を求めて地球へやってきた宇宙海賊で、冒険とロマンを愛する宇宙人と地球人で構成されたスーパー戦隊。弱者に対して非道の限りを尽くす宇宙帝国ザンギャックに反旗を翻し、生命体の自由を守るために戦い続ける。

海賊戦隊。右からルカ・ミルフィ(イエロー)、ジョー・ギブケン(ブルー)、キャプテン・マーベラス(レッド)、伊狩 鎧(シルバー)、ドン・ドッゴイヤー(グリーン)、アイム・ド・ファミーユ(ピンク)。

ゴーカイガレオンバスター

バズーカタイプの必殺武器。5本のレンジャーキーをセットしてパワーチャージし、破壊エネルギーを放つ。

豪快チェンジ

歴代スーパー戦隊のレンジャーキーを変身携帯モバイレーツにセットし、そのヒーローの姿に豪快チェンジ(変身)し、戦闘力を発揮する特殊能力。

アカレッド

宇宙を旅していた〝赤き海賊団〟のリーダー。宇宙空間に散ったレンジャーキーを集め、元の力の持ち主たちに戻すことが目的。

海賊戦隊ゴーカイジャー

2011年2月13日～2012年2月19日

@用户2707638182

シリーズの変革を求め、これまで以上にリアルなヒーローの創造に挑んだ『特命戦隊ゴーバスターズ』のモチーフは〝スパイ〟であった。ヒーローに変身後もマスクは着脱可能で、使用する装備も一眼レフカメラや双眼鏡など、実際にある道具が変形するという設定となっていた。ただし彼らが活躍するのは、新西暦を使用する架空の世界となっている。

バスターマシン CB-01 チーター

ゴーバスターエース

レッドのバスターマシン。チーターはバスタービークルからバスターアニマル、さらにゴーバスターエースに変形する機能を有している。

バスタービークル

バスターアニマル

チダ・ニック バイクモード

レッドバスターのバディロイドであるチダ・ニックが変形したオートバイ。最高速度は300km/h以上。

バスターマシン GT-02 ゴリラ

ゴリラがブルー、ラビットがイエローのバスターマシンで、バスタービークルからバスターアニマルに変形する。

バスタービークル

バスターアニマル

ゴーバスターオー

ゴーバスターエースにゴリラとラビットが特命合体して完成。ブーストバスターソードが必殺武器。

RH-03 ラビット

バスタービークル

バスターアニマル

特命戦隊のメンバー。右から宇佐見ヨーコ（イエロー）、岩崎リュウジ（ブルー）、桜田ヒロム（レッド）、陣マサト（ビート）、ビート・J・スタッグ（スタッグ）。

特命戦隊ゴーバスターズ

TOKUMEI SENTAI GO-BUSTERS

新西暦2012年、亜空間から襲いくるヴァグラスをシャットダウンするために結成されたエネルギー管理局所属のスーパー戦隊で、人間社会と新エネルギー〝エネトロン〟の防衛が任務。後半で仲間が加わり、5人体制となる。

スタッグバスター　ビートバスター　レッドバスター　ブルーバスター　イエローバスター

特命戦隊ゴーバスターズ GO-BUSTERS

2012年2月26日～2013年2月10日

@用户2707638182

『獣電戦隊キョウリュウジャー』では、幼児や児童が好む〝恐竜〟がモチーフとなり、強いスーパー戦隊を意識したキャラクターが創造された。また、獣電池という連動アイテムや獣電竜という恐竜キャラクターたちも多くのファンを獲得し、結果的に大人気を獲得した作品となっている。また、特筆すべき点は最終的にチームのヒーローが10人になったことであろうか。

獣電戦隊キョウリュウジャー ZYUDEN SENTAI KYORYUGER

史上初、獣電竜に打ち勝った「強き竜のもの」が、同時代に現れ、結成したスーパー戦隊。獣電竜とパートナーを組み、地球の支配種を滅ぼそうと企てるデーボス軍と対決した。当初は5人だったが、途中で仲間が加わって10人体制となる。

獣電竜

キョウリュウジン

ガブティラ、ステゴッチ、ドリケラがカミツキ合体した伝説の巨大戦士。必殺技はキョウリュウジン・ブレイブフィニッシュ。

ガブティラ

ステゴッチ

ドリケラ

ガブティラはレッド、ステゴッチはブルー、ドリケラはピンクとパートナーを組み、活躍する。

ディノチェイサー

獣電竜ディノスとチェイスがカミツキ合体し、誕生した高速オートバイ。最高速度300km/hで走行し、20mのジャンプ力を誇っている。

ケントロスパイカー

5人が持つ獣電アームズが、ケントロスパイカー獣電池の力で合体し、完成した巨大武器。一撃で敵を粉砕する。

キョウリュウジャーのメインメンバー。右から立風館ソウジ（グリーン）、アミィ結月（ピンク）、桐生ダイゴ（レッド）、ウッチーこと空蝉丸（ゴールド）、ノッさんこと有働ノブハル（ブルー）、イアン・ヨークランド（ブラック）。

@用户2707638182

烈車戦隊トッキュウジャー

2014年2月16日～2015年2月15日

トッキュウジャーにチェンジする青年たち。右から虹野 明(6号)、カグラ(5号)、ヒカリ(4号)、ライト(1号)、トカッチ(2号)、ミオ(3号)。

レンケツバズーカ

5人の武器を連結させた合体発射砲。イマジネーションエネルギーを破壊パワーに変えて放つ。

トッキュウ7号

レインボーラインの鉄道警察隊隊長となった元車掌がチェンジする戦士。イマジネーション拳法を駆使して強敵に立ち向かう。

烈車

レッドレッシャー

ブルーレッシャー

イエローレッシャー

グリーンレッシャー

ピンクレッシャー

レッドレッシャーは1号、ブルーレッシャーは2号、イエローレッシャーは3号、グリーンレッシャーは4号、ピンクレッシャーは5号が運行する。

トッキュウオー

レッド、ブルー、イエロー、グリーン、ピンクの5編成が烈車合体した巨大ロボ。必殺武器、フミキリケンを使用。

烈車戦隊
トッキュウジャー
RESSHA SENTAI TOQGER

正義の路線・レインボーラインを走る烈車に乗った5人の青年が結成したスーパー戦隊。夢見る力「イマジネーション」をパワーにし、世界を闇に包もうとする勢力・シャドーラインに挑んだ。途中で新戦士が加わり、6人のチームとなる。

“列車”と“鉄道”をモチーフとした『烈車戦隊トッキュウジャー』は、マスクが烈車と線路を模した形状となり、上半身には路線図をイメージさせる模様が描かれた。本作のトピックスとしては、仲間同士で連動アイテムを交換して変身ブレスレットにセットする「乗り換え」の能力で、身体をその戦士の形状と色に変化させることであった。

トッキュウ3号
トッキュウ2号
トッキュウ1号
トッキュウ6号
トッキュウ4号
トッキュウ5号

@用户2707638182

"忍者"をモチーフに制作された『手裏剣戦隊ニンニンジャー』は、手裏剣が連動アイテムとなり、マスクやスーツのデザインにも巧みに取り入れられた。また、物語としては"ラストニンジャ"の称号を得るために、若者たちが祖父の志を受け継ぐという"家族三世代"のドラマが描かれ、ハードな内容は極力避けた明るく楽しい作品に仕上がっている。

ムササビの術

ニンニンジャーたちの移動手段。忍法で特殊な布を出し、それを空中で開いてすばやく滑空する。

ニンニンジャーにシュリケン変化する青年たち。右からキンジ・タキガワ(スター)、伊賀崎風花(シロ)、加藤・クラウド・八雲(アオ)、伊賀崎天晴(アカ)、松尾 凪(キ)、百地 霞(モモ)。

ミドニンジャー

九重ルナという少女に牙鬼一族だった十六夜九衛門が憑依し、シュリケン変化した姿。風雷業火の術や超絶十字砲火の術を使う。

シュリケンジン

5体のオトモ忍がシュリケン合体し、誕生するカラクリ巨大ロボ。ドラゴソードを使用。

オトモ忍

ワンマル

シノビマル

ビュンマル

ドラゴマル

ダンプマル

アカがシノビマル、アオがドラゴマル、キがダンプマル、シロがワンマル、モモがビュンマルを召喚の術で呼び出す。

手裏剣戦隊ニンニンジャー

SYURIKEN SENTAI NINNINGER

"ラストニンジャ"の称号をもつ伝説の忍者・伊賀崎好天の血を受け継ぐ5人の孫たちによって結成されたスーパー戦隊。全員がシュリケン忍法を会得しており、妖怪を操る牙鬼軍団から人間の平和を防衛することが目的。途中で好天の弟子が加わり、6人となった。

2015年2月22日~2016年2月7日

@用户2707638182

動物戦隊ジュウオウジャー

2016年2月14日～放送中

シリーズ40作目の記念作品として制作された『動物戦隊ジュウオウジャー』は、その名の通り"動物"をモチーフとしてデザインされた。その中でも主人公は、鷲・ゴリラ・クジラ、6人目の戦士はサイ・狼・ワニの形態に変身するという、これまでのシリーズにはない試みがなされた。

ジュウオウホエール

ホエールチェンジガン

大王者の資格が変化したアイテムで、キューブモードからガンモードに変形。必殺技はジュウオウファイナルである。

ジュウオウゴリラ

野性解放

ジュウオウジャーたちが、それぞれの体内に秘めたジューマンパワーを全解放し、動物本来の戦闘力・能力を発揮した姿。また、ジュウオウザワールドは野性大解放で三位一体の攻撃を行うことができる。

ジュウオウキング(1・2・3)

イーグル、シャーク、ライオンが動物合体し、完成した巨大ロボ。キングソードで敵の強靭なボディーをも一刀両断にする。

ジュウオウキューブ

ジュウオウジャーが使
キューブ型の巨大動物メカで、その内部空間にはコクピットが存在し、乗り込むことが可能である。

キューブイーグル

キューブシャーク

キューブライオン

キューブエレファント

キューブタイガー

エレファントとタイガーがイーグルと動物合体すると、ジュウオウキング(1・5・4)が完成する。

ジュウオウスラッシュ

ジュウオウバスターを剣モードに変化させ、5人同時に斬りつける必殺技。一撃で敵の体は爪に引き裂かれたような状態になる。

ジュウオウジャーになる人間とジューマン。右からタスク(エレファント)、セラ(シャーク)、門藤 操(ザワールド)、風切大和(イーグル)、レオ(ライオン)、アム(タイガー)。

ジュウオウタイガー
ジュウオウイーグル
ジュウオウザワールド
ジュウオウライオン
ジュウオウシャーク
ジュウオウエレファント

動物戦隊ジュウオウジャー

DOUBUTSU SENTAI ZYUOHGER

宇宙から襲来したハンター集団・デスガリアンに立ち向かうため、動物の王者たちが結成したスーパー戦隊。2人の人間と4人のジューマンによって編成されており、ジュウオウチェンジャーでヒーローの姿に本能覚醒(変身)する。

@用户2707638182

白倉 伸一郎

東映株式会社取締役／テレビ第二営業部長

スーパー戦隊 過去と未来

ついに41作目を迎えようとしている、「スーパー戦隊シリーズ」。他の追随を許さない長期シリーズを構成する諸要素とは、はたして何か？シリーズが秘める特性とその変遷、そして新たな挑戦とは？

私は『(秘密戦隊)ゴレンジャー』をちょこっと観て特撮から離れていて、偶然『(電子戦隊)デンジマン』を観て「なんだこれは」とビックリして、再放送がかかったときに頭から観たという感じでした。で、私見なんですけど、いまに至る「スーパー戦隊シリーズ」の源流は、『(超電磁ロボ)コン・バトラーV』だと思っているんです。それが『(超電磁マシーン)ボルテスV』や鈴木(武幸)が担当した『闘将ダイモス』へと続いて、その後番組は『バトルフィーバーJ』なわけで、東映的にも『コン・バトラー』で生み出されたガジェットを引き継いだのは、母艦とロボを売りにした『バトルフィーバー』で、その方向性がより明確になるのが『デンジマン』だったんですね。いわば、「東映本社制作巨大ロボ」くくりの捉え方なわけで、「巨大ロボアニメを実写でもできます」ということだったんですよね。いまでもそういう部分はあると思うんですが、まず巨大ロボを発想して、それをどのようにヒーローに落とし込んでいくかという考え方で組み立てられていったわけです。

それで、以降の「スーパー戦隊シリーズ」はロボのシステムが急速に進歩して、『(大戦隊)ゴーグルV』で3大合体、『(光戦隊)マスクマン』で5大合体になるんです。このあたりは、『(太陽戦隊)サンバルカン』からシリーズに参加した鈴木が、アニメのテイストを正しく「スーパー戦隊」に導入していった結果ともいえます。そしてヒーローをメカの搭乗者としても捉える有り様は、「スーパー戦隊」を「仮面ライダー」と分かつ大きな要素にもなりました。設定やギミックが面白いロボと、それと整合性のある、モチーフがしっかりしたヒーローたちがいる。作品そのものは、どんどん洗練されていると思いますよ。

よく「スーパー戦隊」を巡る議論で、5人で一人をやっつけているという話題がありますけど(笑)、5対1という見えざまはともかく、ヒーローが複数であるということが要なわけなんです。『忠臣蔵』はどうして四十七士なのか、『里見八犬伝』は8人じゃないといけないのかということと同じで、大切なのはその人数が集まることにより、なにか良いことが起こるという図式なんですね。「スーパー戦隊」はまさにそうで、『仮面ライダー』が5作分集まりましたよ」ということとは、何かが違うんですよね。

『ゴレンジャー』がいまの「スーパー戦隊」とまったく関係ないのかというと、そんなことはなく、『バトルフィーバー』のキャラクターの構築においては事実上意識されていなかった5色のヒーローというイメージは、『デンジマン』で復活しています。そんな5色のヒーローと誕生経緯の違う巨大ロボを無理やり融合させた結果として、一度倒した敵が巨大化し、それをロボで迎え撃つというよくわからないフォーマットが出来上がったんです(笑)。いまに至るもその理屈は不可解で、そのパターンに挑戦したのが『(超電子)バイオマン』であり、『(特命戦隊)ゴーバスターズ』であったわけです。パターンをドラマと融合させられないか、もしくはパターンを逆手に取って新たなパターンを構築できないかといった試みは度々なされているんですね。でも等身大戦と巨大戦があるという2回戦制、二毛作は、理屈が通っているからやってみたわけではなく、必要があってやむをえずやってみたら当たったという流れなんです。ここが、「スーパー戦隊」の魅力であると同時に欠点でもあります。「どうして当たっているのか」ということをきちんと言語化できた人がいないんですよ。この二毛作が新シリーズを企画する人が必ずぶち当たる壁でもあり、それをどう受け止めて消化すればいいのかわからないというのが、良くも悪くも「スーパー戦隊」の最大の特徴なんです。

私が入社したときは『(地球戦隊)ファイブマン』が苦戦している、『(鳥人戦隊)ジェットマン』の立ち上げ時期でした。それまでの「スーパー戦隊」の作られ方は、どんなに新しいことをやったとしても、どこか1970年代の東映ヒーローをどうリニューアルするかという作業だったんですね。それが、『ジェットマン』ができたことにより、「もしかしたら先端に行けるかもしれない」というシリーズになったんです。観ていて面白い番組でしたよね。ドラマがどこへ行くかわからないし、5人から目が離せない。「スーパー戦隊」の5人を、ちゃんと人間として描けるんだということを認識した作品でもありました。いまから見ると、漫画的ではあるんですが(笑)。その『ジェットマン』から『(恐竜戦隊)ジュウレンジャー』への流れについては、私を含めて関係者は随分悩みました。いくつかの「スーパー戦隊」フォーマットの遵守を義務付けられたなかで、企画を進めたんです。そんななかで出てきたのが、要はロボットが偉いじゃないかということ。「偉いんだから、いっそのこと神様にしちゃえ」ということだったんですね(笑)。

それ以降も「スーパー戦隊」は常に苦しさと疑問と悩みのなかで企画されてきましたが、最新の『(宇宙戦隊)キュウレンジャー』は「スーパー戦隊」の王道をきっちりと提示することを意図しています。それは、メンバーが揃うところを大いに盛り上げること。それと、ロボットの合体をいかに見せ場にできるかということです。そのためには、「スーパー戦隊ってこうだよね」っていう既成概念を壊すことが必要でした。そうしないと、『ゴレンジャー』以来の「5人揃って」と「巨大ロボアニメ」の「合体だ！」という王道すらできなかったんです。変わらないために変える。構造上は「スーパー戦隊」史上最も大きな改革に取り組んでいるように見せかけ、すべては望月(卓)に投げています(笑)。

@用户2707638182

講談社シリーズMOOK

スーパー戦隊 Official Mook 21st CENTURY

CONTENTS 創刊 vol.00

スーパー戦隊 その歴史とは？
「スーパー戦隊」15年の記憶 鈴木武幸 …… 3
2017年 今度のスーパー戦隊は9人で最強！
宇宙戦隊キュウレンジャー …… 4
インタビュー 望月 卓 …… 7
40大スーパー戦隊の系譜ACT.1
秘密戦隊ゴレンジャー …… 8
ジャッカー電撃隊 …… 9
バトルフィーバーJ …… 10
電子戦隊デンジマン …… 11
太陽戦隊サンバルカン …… 12
大戦隊ゴーグルV …… 13
科学戦隊ダイナマン …… 14
超電子バイオマン …… 15
電撃戦隊チェンジマン …… 16
超新星フラッシュマン …… 17
光戦隊マスクマン …… 18
超獣戦隊ライブマン …… 19
高速戦隊ターボレンジャー …… 20
地球戦隊ファイブマン …… 21
鳥人戦隊ジェットマン …… 22
恐竜戦隊ジュウレンジャー …… 23
五星戦隊ダイレンジャー …… 24
忍者戦隊カクレンジャー …… 25
超力戦隊オーレンジャー …… 26
激走戦隊カーレンジャー …… 27
電磁戦隊メガレンジャー …… 28
星獣戦隊ギンガマン …… 29
救急戦隊ゴーゴーファイブ …… 30
未来戦隊タイムレンジャー …… 31
スーパー戦隊へのメッセージ …… 32
40大スーパー戦隊の系譜ACT.2
百獣戦隊ガオレンジャー …… 34
忍風戦隊ハリケンジャー …… 35
爆竜戦隊アバレンジャー …… 36
特捜戦隊デカレンジャー …… 37
魔法戦隊マジレンジャー …… 38
轟轟戦隊ボウケンジャー …… 39
獣拳戦隊ゲキレンジャー …… 40
炎神戦隊ゴーオンジャー …… 41
侍戦隊シンケンジャー …… 42
天装戦隊ゴセイジャー …… 43
海賊戦隊ゴーカイジャー …… 44
特命戦隊ゴーバスターズ …… 45
獣電戦隊キョウリュウジャー …… 46
烈車戦隊トッキュウジャー …… 47
手裏剣戦隊ニンニンジャー …… 48
動物戦隊ジュウオウジャー …… 49
スーパー戦隊 過去と未来 白倉伸一郎 …… 50

講談社シリーズMOOK
スーパー戦隊 Official Mook
21世紀 vol.0 41大スーパー戦隊集結！

【STAFF】
■監修 ▶ 東映、石森プロ
■写真 ▶ 大島康嗣、高橋良明、杉山勝巳、石森プロ、東映
■撮影 ▶ 山本 遼、神谷美寛（講談社写真部）
■取材・構成・編集 ▶ 小野浩一郎、岩畠寿明（エープロダクション）
■アートディレクション ▶ 平井一人（ダイアートプランニング）
■デザイン ▶ 白石友祐、安達勝利、吉川層通（ダイアートプランニング）

2017年1月25日 第1刷発行
講談社 編
発行所 株式会社 講談社
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
電話 03-5395-4021（編集）
03-5395-3625（販売）
03-5395-3603（業務）
編集人 菅家洋也
発行人 清水保雅
印刷所 共同印刷株式会社
製本所 本村株式会社

定価は表紙に表示してあります。
落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
なお、この本についてのお問い合わせは第六事業局あてにお願いいたします。
本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

©2017テレビ朝日・東映AG・東映
©テレビ朝日・東映AG・東映
©石森プロ・東映 ©東映
©Marvel Characters, Inc. All Rights Reserved
©KODANSHA 2017, Printed in Japan

ISBN 978-4-06-509511-9

次号予告！

百獣戦隊 ガオレンジャー

スペシャルインタビュー
金子 昇
ガオレッド 獅子走役

- 21世紀、スーパー戦隊の再構築
- ガオレンジャーのスペック
- パワーアニマルのすべて
- オルグ全図鑑
- ヒーローデザイン考案
- スタッフ&キャストインタビュー
  - 金子 昇（出演）
  - 福沢博文（ガオレッド役）
  - 武上純希（脚本）
  - 日笠 淳（プロデューサー）

2月25日（土）発売

定価：本体630円（税別）

@用户2707638182

RED & GOLD Collection

情熱の赤、永遠の輝き

『スーパー戦隊Official Mook』シリーズを収納する専用バインダーをご用意しました。21世紀の「スーパー戦隊」が、一堂に集結した高級感あふれるデザインのオリジナル企画。ほかでは入手不可の貴重なバインダーで本誌をコレクションしてください。

FRONT

表面には、2017年の新番組『宇宙戦隊キュウレンジャー』をメインに、『百獣戦隊ガオレンジャー』から『動物戦隊ジュウオウジャー』までのレッドが集結。ゴールドのラインが光り輝く!

BACK

裏面には、16作品のスーパー戦隊ロボが夢の競演。

1個につき本誌を9冊まで綴じることができ、全17巻を2つのバインダーで収納できます。

オリジナル特製

『スーパー戦隊Official Mook』21世紀 専用バインダー

〈価格:本体1650円(税別)〉 講談社

2月25日発売!

同時発売!

vol.1

「百獣戦隊ガオレンジャー」

〈定価:本体630円(税別)〉

雑誌 63218-20

ISBN978-4-06-509511-9

C9474 ¥630E (0)

定価:本体630円(税別)

講談社

9784065095119

1929474006303